

# 大森山公園 整備基本計画



## 秋田市大森山動物園



# 大森山公園整備基本計画

## 目 次

1. はじめに .....	1
1.1 基本計画について .....	2
1.2 基本構想の整理 .....	6
2. 整備方針 .....	17
2.1 コンセプトと整備方針 .....	17
2.2 ゾーニング計画 .....	20
2.3 動線計画 .....	21
3. 基本計画 .....	22
3.1 全体基本計画図 .....	22
3.2 エントランスゾーン .....	23
3.3 動物展示ゾーン .....	25
3.4 水と森のゾーン .....	30
3.5 原っぱのゾーン .....	34
3.6 眺めのゾーン .....	38
3.7 体験学習ゾーン .....	42
3.8 自然緑地ゾーン .....	45
4. 推進プロジェクト .....	47
4.1 にぎわい創出プロジェクト .....	47
4.2 回遊性創出、移動円滑化プロジェクト .....	49
4.3 持続可能な動物園運営管理プロジェクト .....	50
5. 整備の推進に向けて .....	51
5.1 概算事業費 .....	51
5.2 整備スケジュール .....	52
5.3 需要推計と波及効果 .....	54
5.4 基本計画のPDCAサイクルと見直し .....	56

## 1. はじめに

大森山公園は、JR秋田駅から南西約7kmに位置し、標高123.5mを頂に、北側に緩やかに伸びた丘陵地にあり、昭和42年11月に都市計画決定された面積70.5haの都市公園であり、日本海沿岸の広域観光拠点として、にぎわい創出、多様な交流と連携を構築することにより、地域経済の活性化、秋田市を代表する景観、県都秋田市を再発見する眺望点の緑、山麓の豊かな自然環境の保全、命と生きることの大切さを知り動物の命をつなぐ環境教育の場として多様な役割を担っています。

平成22年3月に策定した「大森山自然動物公園（仮称）整備構想」（以下「整備構想」という。）では、公園内の各施設の老朽化や、電気、水道などの基盤施設の抜本的な改修、更新時期への対応とともに、大森山動物園を広域観光拠点として更なる魅力向上を図ることを目的に、長期的な視点から公園の自然と調和を持ちつつ、機能整備を推進することを定めています。

この整備構想については、社会情勢の変化とともに新たな課題も生じ、更なる交流人口の拡大とにぎわい創出に向けた取組により大森山自然動物公園による観光振興を一層推進するため平成29年12月に見直しを図っており、整備構想の具現化に向け、必要となる施設整備や、民間企業、学校、地域と協力・連携した取組を推進していくため「大森山公園整備基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定したものであります。



## 1.1 基本計画について

### 1.1.1 基本計画策定の背景・目的

大森山公園の整備を進めていく上で必要な課題の整理と整備の方針については、整備構想に掲げ、実現に向けた取組の方向性を示しています。

今回新たに定める基本計画は、整備構想に基づいた考え方を土台とし、人口減少や少子高齢化の進行といった諸課題を踏まえ、豊かな自然や景観との調和を図りながら、大森山公園を将来にわたり市民の憩いの場として親しまれ、より魅力的な観光拠点として整備するため、秋田市大森山動物園条例に掲げた「大森山の豊かな自然の中で、動物との出会いおよびふれあいを通して、市民のレクリエーションの場を提供することにより、自然および命の大切さについて学び、かつ、動物の命をつなぐ場を目指す」という理念を根幹として、大森山動物園を核としたにぎわいの創出、大森山動物園と公園の連絡性を高める整備、公園内の資源を効果的に活用した回遊性の創出、繁忙期の渋滞緩和とアクセスの向上に重点を置き策定するものです。

#### ■大森山公園・大森山動物園の年表

大森山公園		大森山動物園	
		1950年(S25)	秋田県児童会館付属動物園開園
		1953年(S28)	秋田市児童動物園（秋田市に移管）
1969年(S44)	子供の国、研修センターのほか、実習農場や牧場、動物園、キャンプ場整備		
1970年(S45)	「大森山少年の家」建設（実習農場）グリーン広場（多目的広場）、展望広場、フィールドアスレチック整備		
		1973年(S48)	秋田市大森山動物園 開園
1976年(S51)	彫刻の森設置		
1979年(S54)	老人と子どもの家（体育館、浴室）		
		1984年(S59)以降	親善動物やキリンなど新たな人気動物の導入、ふれあいランドやチンパンジーの森、王者の森
		2010年(H22)	大森山自然動物公園（仮称）整備構想策定
2012年(H24)	公園施設管理運営一元管理		
		2013年(H25)	エンリッチメント大賞受賞
		2014年(H26)	ビジターセンター オープン
2017年(H29)	大森山アートプロジェクト	2017年(H29)	大森山自然動物公園（仮称）整備構想改訂
		2019年(H31)	野生生物保護功労者環境大臣表彰
			エンリッチメント大賞受賞
		2021年(R3)	新サル舎整備

### 1.1.2 計画対象範囲

基本計画は、大森山公園の都市計画公園区域を対象範囲とします。

#### ■基本計画の対象範囲および面積

計画対象範囲	大森山公園（都市計画公園区域）
計画対象面積	都市決定面積 70.5ha（うち未開設面積 1.19ha）

### 1.1.3 計画地周辺の用途地域

大森山公園は市街化調整区域にあり、計画地の北側及び西側は住居系の用途地域（第1種中高層居住専用地域、第1種居住地域、第1種低層住居専用地域）が隣接しています。

また、大森山公園を含む周辺の一帯は、大森山風致地区（129.2ha）に指定されています。

### 1.1.4 計画期間

計画期間は、事業着手から概ね5年毎に短期、中期、長期に区分し、段階的な整備目標として設定します。

#### ■基本計画の期間

短期	中期	長期	継続
早期に対応すべき 施策  (概ね5年以内)	相応の準備期間を 要する施策  (概ね10年以内)	次世代への継承も 想定して対応すべ き施策  (概ね15年以内)	主に教育、環境の分野 などにおける企業、地 域等との連携による 継続的に取り組む施 策

## 1.1.5 基本計画の構成

### (1) 整備方針

コンセプトと整備方針の基本的な考え方は、整備構想を継承するものです。

また、公園全体で7つのゾーンを設定し、ゾーンごとに特色を生かした整備方針とし、ゾーン内、各ゾーン間および公園全体の動線整備のあり方を計画します。

#### ■整備構想のコンセプト

「大森山の自然と調和し、市民とともに成長し続ける公園づくり」

#### ■整備構想における分野別の整備方針

分野	整備方針
自然	自然とともに息づく動物園の再整備
観光	新たな魅力による観光拠点としての再生
教育	豊かな人間形成に資する体験学習の場の創出
環境	資源循環システムの構築とエコへの挑戦
協働	市民や企業と協働により成長し続ける施設の構築

#### ■整備構想におけるゾーニング

ゾーン名称	位置づけ
エントランスゾーン	公園利用者の拠点となるゾーン
動物展示ゾーン	大森山自然動物公園の核となるゾーン
水と森のゾーン	現況自然の保護、活用を図るゾーン
原っぱのゾーン	多目的な広場のゾーン
眺めのゾーン	雄大な眺めを楽しむゾーン
体験学習ゾーン	体験学習ゾーン
自然緑地ゾーン	秋田市を代表する景観の礎となるゾーン

### (2) 基本計画

整備構想で設定している各ゾーンにおける整備方針と、分野別の視点による有効な整備計画内容を示しています。

### (3) 推進プロジェクト

基本計画を推進するにあたって、各ゾーンにおける整備内容を連携するため3つのプロジェクトを設定しています。

- ア にぎわい創出プロジェクト
- イ 回遊性創出、移動円滑化プロジェクト
- ウ 持続可能な動物園運営管理プロジェクト

#### (4) 整備の推進に向けて

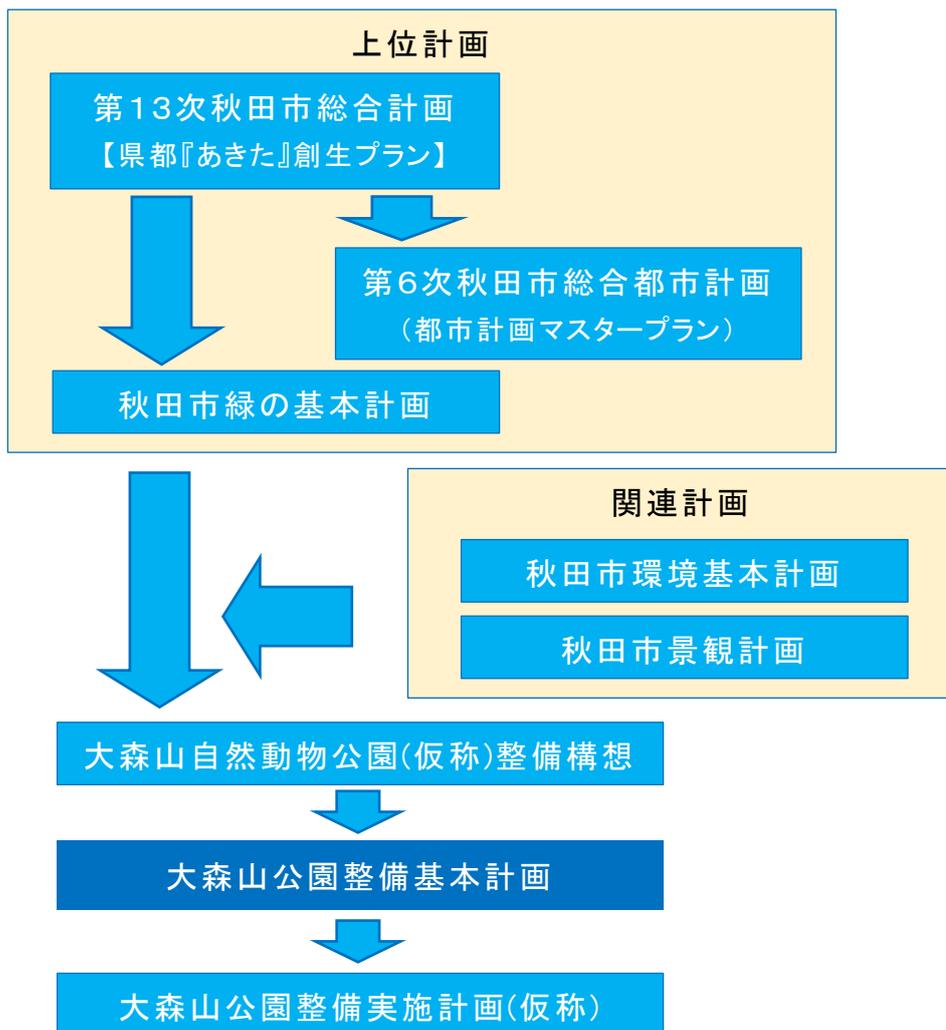
基本計画の実施に向けた概算事業費と整備スケジュールなどを設定しています。

- ア 概算事業費
- イ 整備スケジュール
- ウ 需要推計と波及効果
- エ 基本計画のPDCAサイクルと見直し

##### 1.1.6 基本計画の位置づけ

基本計画は、上位計画である「第13次秋田市総合計画」、「第6次秋田市総合都市計画」および「秋田市緑の基本計画」に則し、その他「秋田市環境基本計画」および「秋田市景観基本計画」などの関連計画とも整合を図るものとします。

なお、今後は基本計画で定めた施策の実現に向けて実施計画を策定し、大森山公園の整備を推進します。



【上位計画、関連計画との関係性イメージ図】

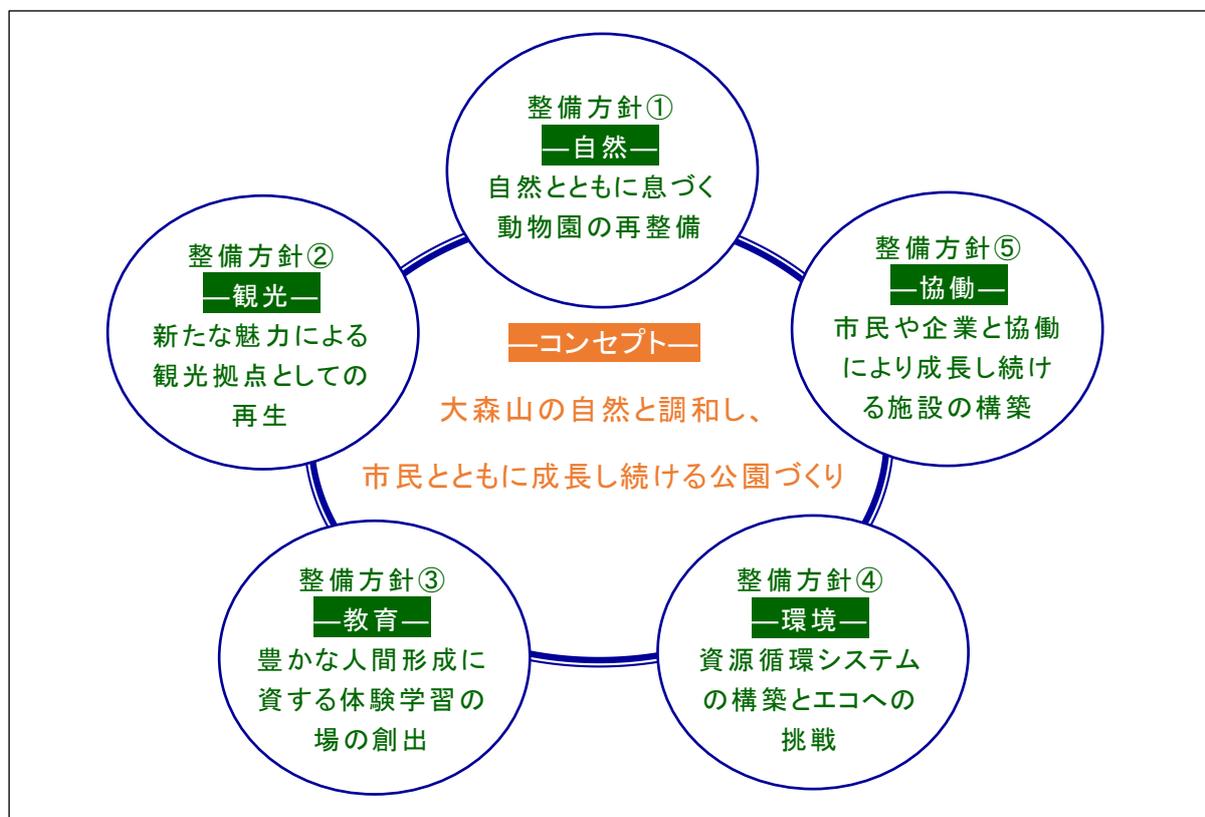
## 1.2 整備構想の整理

ここでは、整備構想における整備方針に基づき実施された整備プログラムの整備状況を整理し、それを踏まえた現状の大森山公園における課題から基本計画で検討すべき事項の整理をします。

### 1.2.1 整備構想における整備方針

整備構想では、「大森山の自然と調和し市民とともに成長し続ける公園づくり」をコンセプトとして掲げ、「自然」、「観光」、「教育」、「環境」、「協働」の5つの分野別に整備方針を定めています。

#### ■ 整備構想の分野別の整備方針



## ■ 整備構想整備方針

### 【自然】

#### 自然とともに息づく動物園の再整備

- ・ 多層、多様、多機能な植生を再生し、自然に溶け込み、自然と調和した施設の整備を行います。

### 【観光】

#### 新たな魅力による観光拠点としての再生

- ・ 芸能文化、スポーツ、観光などの地域資源を生かし、動物園に遊園地を有する個性ある公園として交流人口の増加とにぎわいの創出を図ります。

### 【教育】

#### 豊かな人間形成に資する体験学習の場の創出

- ・ ゼニタナゴ保全池（ピオトープ）の整備やふれあい体験学習の充実を図ります。

### 【環境】

#### 資源循環システムの構築とエコへの挑戦

- ・ 堆肥化施設と飼料作物栽培圃場の整備や風力、太陽光発電の導入を図ります。

### 【協働】

#### 市民や企業と協働により成長し続ける施設の構築

- ・ 市民や企業、学校、地域などとの協働体制の構築を図ります。

## 1.2.2 整備状況の整理

ここでは、整備構想で定めた整備プログラムについて分野別に現在の状況を整理します。

整備プログラムは、「整備完了」、「未整備」、「継続実施」の3つに分類し、そのうち「未整備」、「継続実施」を本計画の検討対象とします。

- ◆ 【整備完了】：整備済みのプログラム
- ◆ 【未整備】：未整備で実施のために検討が必要なプログラム
- ◆ 【継続実施】：着手済であるが、継続的に整備、取り組みが必要なプログラム

## (1) 自然

### ■ 整備構想整備方針

#### 自然とともに息づく動物園の再整備

- ・ 多層、多様、多機能な植生を再生し、自然に溶け込み、自然と調和した施設の整備を行います。

### ■ 整備構想整備プログラムの整備状況

課 題	整備構想 整備プログラム	実 績
動物飼育施設 の老朽化	カ舎の改修	R3.3 供用開始【整備完了】
	アカ舎周辺の改修	【未整備】
	小動物を自然の中に展示	【未整備】
防疫体制強化、 安全管理	感染症などの防疫体制	入園時の消毒等の対策を実施【継続実施】
主要動物の 繁殖、保存	アカ・トラなどの増殖ストックスペース	【未整備】
	新たな動物の導入、 グリーン広場周辺の活用	【未整備】
希少種の繁殖、 保存	ゼニナガト保全池整備、 塩曳潟の水質改善	保全活動、 仮設的な保全池の整備【継続実施】
バリアフリーに 対応した園路 整備	園内バリアフリー、ユニバーサルデザイン化	バリアフリー化対策、 補助動線未整備【継続実施】
集客力向上、 交流人口拡大	情報発信、PR	広報誌の発行、HP、SNS (Twitter、Facebook、 Instagram、Youtube)での 情報発信【継続実施】
	園内 Wi-Fi 環境を利用した GPS 機能付き園内マップ、 デジタルコンテンツ	大森山動物園地図アプリを リリース H30.1～【整備完了】

## (2) 観光

### ■ 整備構想整備方針

#### 新たな魅力による観光拠点としての再生

- ・ 芸能文化、スポーツ、観光などの地域資源を生かし、動物園に遊園地を有する個性ある公園として交流人口の増加とにぎわいの創出を図ります。

### ■ 整備構想整備プログラムの整備状況

課 題	整備構想 整備プログラム	実 績
駐車場容量不足、渋滞解消	駐車場拡充整備、駐車場情報等提供	【未整備】
施設間の移動の負担軽減、回遊性向上	施設間通路の整備、移動負担軽減	【未整備】
	南側出入口ゲート整備	【未整備】
渋滞解消	一方通行路等、公園道路交通処理再整備	【未整備】
案内サイン、誘導サインの不足	外国語表記などのサイン表示	一部サインの英語表示、美大との連携によるサイン設置【継続実施】
キャンプ場老朽化、利用者減	キャンプ場の再整備の検討	【未整備】
少年の家跡地の有効利用	駐車場やイベント利用も可能な芝生の多目的広場の整備	暫定的に繁忙期の臨時駐車場として開放【継続実施】
グリーン広場での多様な形態による活用	グリーン広場再整備	【未整備】
	動物園、グリーン広場間の園路整備	
	新たな動物展示の研究	
展望台利用者拡大、施設の老朽化	老朽施設の改修や休養、便益施設の整備	【未整備】
	周辺の散策路の整備	【未整備】
新たな来園者層の開拓	ビジターセンターの食事方法、県の特産品の販売の検討	(継続実施)
	通年開園のためのシステム整備	冬の動物園開催(土日祝限定) 【継続実施】
	農業体験などの新たな客層の確保	【未整備】

### (3) 教育

#### ■ 整備構想整備方針

##### 豊かな人間形成に資する体験学習の場の創出

- ・ゼニタナゴ保全池（ビオトープ）の整備やふれあい体験学習の充実を図ります。

#### ■ 整備構想整備プログラムの整備状況

課 題	整備構想 整備プログラム	実 績
教育的利用の 促進	校外学習の場として利用促進	幼稚園、保育所、小学校の遠足 自然科学学習館との連携【継続実 施】
	希少種（ゼニタナゴ）の保全を通じた 自然教育	市民と協働したゼニタナゴの保全活動 【継続実施】

### (4) 環境

#### ■ 整備構想整備方針

##### 資源循環システムの構築とエコへの挑戦

- ・堆肥化施設と飼料作物栽培圃場の整備や風力、太陽光発電の導入を図ります。

#### ■ 整備構想整備プログラムの整備状況

課 題	整備構想 整備プログラム	実 績
環境負荷の軽 減、経費削減	燃料費や光熱水費の削減	【継続実施】
	新Iネット、省Iネット施設の導入	【未整備】
	無散水融雪システム（井戸水活用）	【未整備】
	既存施設の省Iネット化	【未整備】
松枯れ植栽地 の植生回復	松枯れ植栽地の植生回復	現状では松枯れ被害がほとんど確 認できない。

## (5) 協働

### ■ 整備構想整備方針

#### 市民や企業と協働により成長し続ける施設の構築

- ・ 市民や企業、学校、地域などとの協力体制の構築を図ります。

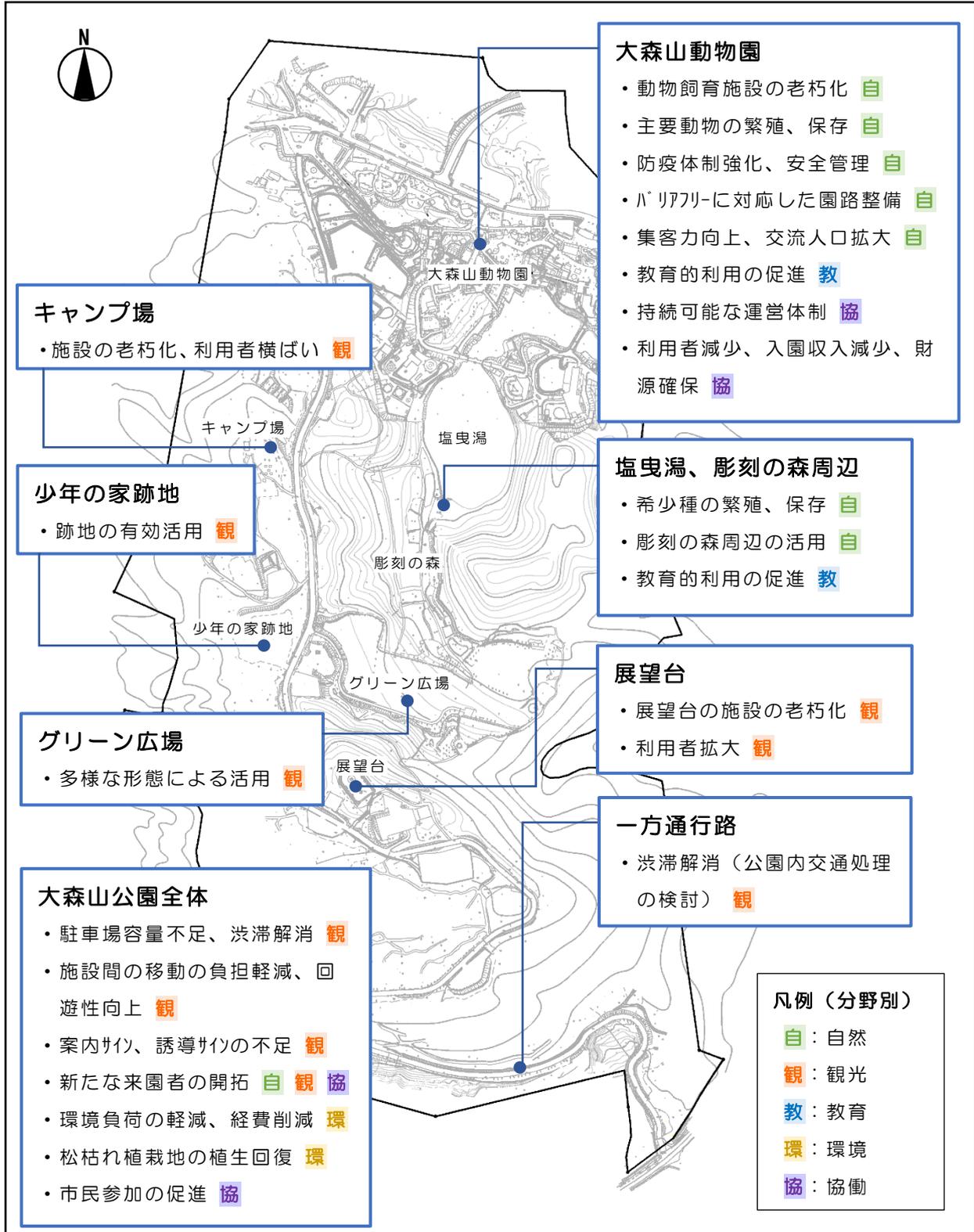
### ■ 整備構想整備プログラムの整備状況

課 題	整備構想 整備プログラム	実 績
市民参加の促進	ボランティアセンターの整備	【未整備】
	サクラの木の保全、整備	NPO との協働による植樹【継続実施】
持続可能な運営体制	人材確保、育成	【継続実施】
	キュレーター、コンシェルジュの確保・育成	【未整備】
	ネーミングライツ、自動販売機設置	ネーミングライツ導入(秋田銀行) H28.3～【継続実施】
	マーケティング等の人材、組織づくり	【未整備】
利用者減少、入園収入減少、財源確保	土地使用料見直し、収入増の取り組み	【継続実施】
新たな来園者層の開拓	地元企業、周辺施設、教育機関との連携	秋田公立美術大学との共同プロジェクトによるイベント開催、サイン等整備 H27～【継続実施】
		国際教養大学の留学生によるモニターツアー【継続実施】
	他の動物園、水族館等の連携	男鹿水族館、加茂水族館との共同HPの作成、イベント開催【継続実施】
	大森山動物園応援会との協力	夜の動物園開催時にミニコンサートを開催【継続実施】
	遊園地運営会社との連携	【継続実施】

### 1.2.3 課題の整理

ここでは、整備構想で定めた整備プログラムの実施状況を踏まえ、現状の大森山公園における課題を整理します。

#### ■大森山公園における課題の整理図



## (1) 大森山公園全体の課題

### i) 老朽化施設の改修とバリアフリー化

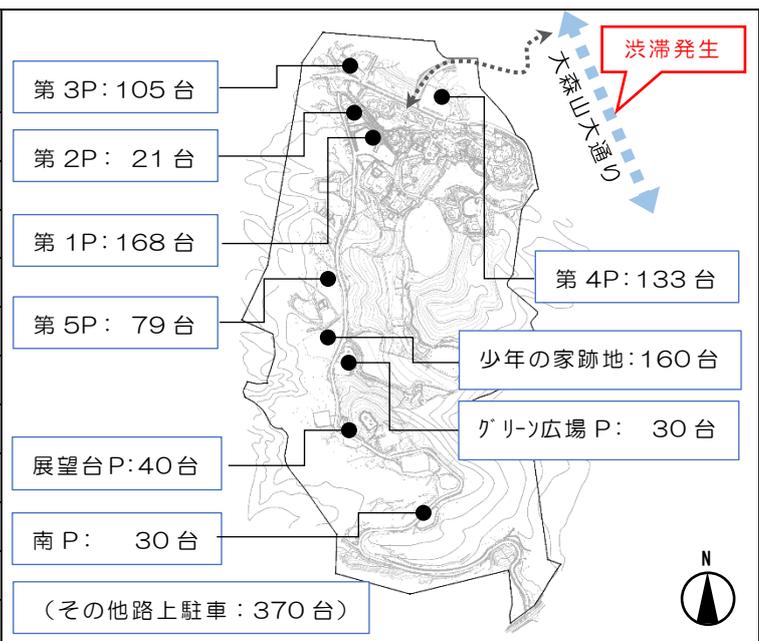
- ◆ 昭和 44 年から昭和 51 年にかけて整備されたキャンプ場や、展望台、グリーン広場、彫刻の森などは、整備から 40 年以上経過しているものもあり、老朽化した施設の改修が課題となっています。
- ◆ 展望台やグリーン広場、彫刻の森やそれらを繋ぐ園路は、自然の地形をそのまま生かして整備した施設がほとんどで、段差や急な坂も多く経路が分かりにくい場合もあり、施設の老朽化に加え、案内サイン不足やバリアフリー化への対応が課題となっています。

### ii) 混雑時の駐車場の不足、渋滞対策

- ◆ 大森山公園や大森山動物園の利用者は、自家用車で訪れることが多く、ゴールデンウィークなどの連休や、夜の動物園などのイベント時には、公園全体の駐車台数の不足が問題となります。
- ◆ 混雑時には、少年の家跡地を臨時駐車場として開放したり、公園内の車路に路上駐車をしたりなど、暫定的な対策を実施していますが、公園内で渋滞が発生するほか、公園のメインの進入路が接続する大森山大通りでも渋滞が発生するなど、公園外の交通にも影響がおよんでいます。
- ◆ 駐車台数の不足のほかに、公園南側通路の一方通行規制が進入方向であることも公園内の渋滞の一因と考えられ、公園内の道路交通処理の再整備が必要です。

#### ■現状の駐車台数

駐車場名称	駐車台数 (台)
第 1 駐車場	168
第 2 駐車場	21
第 3 駐車場	105
第 4 駐車場	133
第 5 駐車場	79
グリーン広場駐車場	30
展望台駐車場	40
南駐車場	30
少年の家跡地*	160
合計	766
(その他路上駐車)	(370)



※混雑時に暫定的に臨時駐車場として開放

### iii) 低未利用地の有効活用

- ◆ 少年の家跡地は、現在混雑時に臨時駐車場として開放していますが、その他の期間には有効に活用できていない現状にあります。そのため、有効な活用方法を検討する必要があります。

### iv) 公園内施設間の移動、回遊性の向上

- ◆ 自家用車で動物園に来園する利用者の多くは、ビジターセンター付近の駐車場に駐車しますが、駐車場から公園内の他の施設までは距離があることから、動物園利用後に他の施設を利用しにくい状況にあり、動物園の集客力を公園全体へ如何に波及するかが課題となっています。
- ◆ 動物園の集客力の波及には、施設間の新たな移動設備の整備や、動物園からその南に位置する公園施設へ直接連絡するための南ゲートの設置など、公園全体の回遊性の向上を図る整備が必要です。

## (2) 大森山動物園の課題

### i) 老朽化施設の改修とバリアフリー化

- ◆ 動物飼育展示施設など老朽化施設のうち、特に北側中央のアシカ舎、小動物周辺施設は動物園開設当初（昭和 48 年）からの施設であるほか、サル山なども設置後 40 年近くが経過し、老朽化が著しく、大規模な改修が必要となっています。また、これら飼育展示施設に関連した電気や給排水関係等、基幹設備の老朽化など大きな問題を抱えています。
- ◆ 資料館などの不特定多数の人々が利用する屋内施設については、昭和 56 年に耐震基準も見直されたこともあり、地震時を想定し改めて施設を見直しすることも必要です。
- ◆ 動物園内の園路の一部には急勾配で階段の多い箇所が存在し、幼児や高齢者、身障者なども円滑に移動可能なバリアフリーに配慮した園路整備に加え、乗り物を利用した移動手段の研究・検討なども必要です。

### ii) 飼育展示動物の防疫体制のおよび感染症対策の強化、安全管理

- ◆ 飼育展示動物による危害や脱出などの事故防止を図り、安全管理対策を推進する必要があります。
- ◆ 平成 28 年に動物園で発生した高病原性鳥インフルエンザは、開設以来前例のない事案であり、以後は防疫体制の強化を図ってきましたが、引き続き取り組む必要があります。さらには令和 2 年から流行が始まった新型コロナウイルス感染症を受け、新たな感染症に対する対策や備えが求められています。動物園では、人間や動物の感染症に対する対策を引き続き実施し、人間と動物の双方の安全を守りながら、安心して楽しめる動物園を目指します。

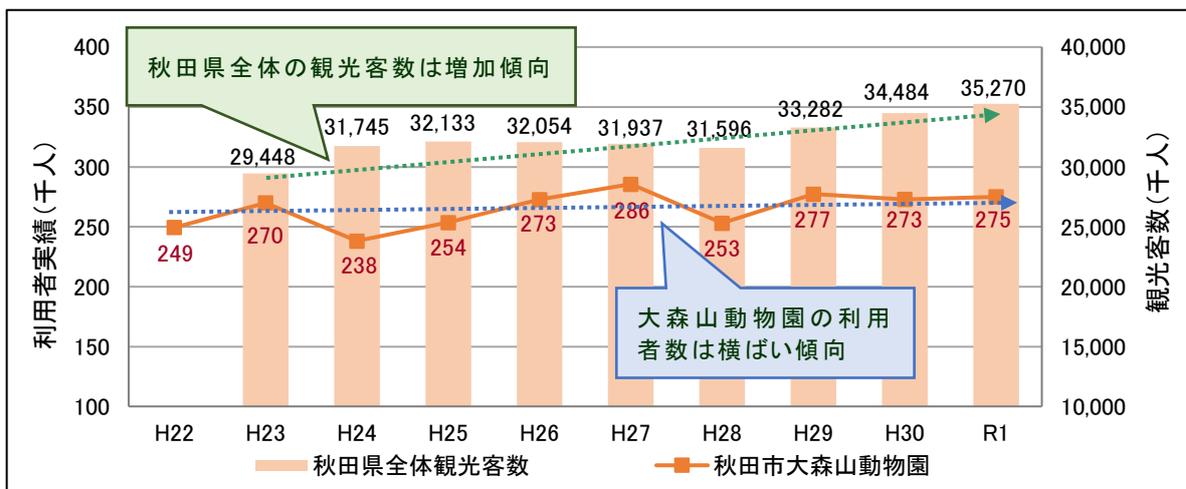
### iii) 飼育展示動物の高齢化、入手困難

- ◆ 地球上の野生動物の絶滅危機が進む中、動物園での展示動物の入手も難しい時代に入っています。環境教育、種保存、生命展示、そして地域観光に寄与する動物園の運営維持のため、こうした動物確保のための動物園飼育の在り方など、様々な視点での研究が必要になっています。

### iv) 新たな来園者層の開拓、集客力向上

- ◆ 過去 10 年間の秋田県全体の観光客数は、増加傾向にありますが、大森山動物園の利用者数は横ばいの傾向にあり、本市における観光拠点として集客力の向上が求められます。
- ◆ 動物園は子どもの夢を育む場でもあり、来園者の多くが子ども連れの家族です。一方、20 代の若者をはじめ、大人の来園者層を確保する環境づくりの取組が必要です。さらに、少子高齢化や人口減少、レジャーの多様化が進む中、ターゲットを定めた集客戦略の展開が必要となります。

#### ■大森山動物園利用者実績と秋田県の観光客数の推移（過去 10 年間）



※観光客数は、平成 23 年から調査方法が変更されたため、変更後のデータのみを記載。

【観光客数および利用者実績】 出典：秋田県観光統計

### v) 持続的な動物園運営と財源の確保

- ◆ 本市の財政状況や社会経済状況などから、これまでどおりの維持管理や施設更新、新たな施設整備が行われることが困難な時代になっています。
- ◆ 動物飼育展示施設の整備については、現在、利用可能な国や県の補助金等はない状況にあります。これまでの飼育展示施設と同様に、大森山動物園特別会計で公営企業債を借り入れ、整備、償還することが考えられますが、償還金については、入園料収入をもって償還金に充てることを原則としているものであることから、入園料の改定を含め、新たな財源の調査、研究に取り組む必要があります。

### (3) 課題の整理と課題解決に向けて

大森山公園および大森山動物園における課題は以下の3つに分類され、基本方針の設定にあたっては、「自然」、「観光」、「教育」、「環境」、「協働」の分野ごとに方針を設定していく必要があります。

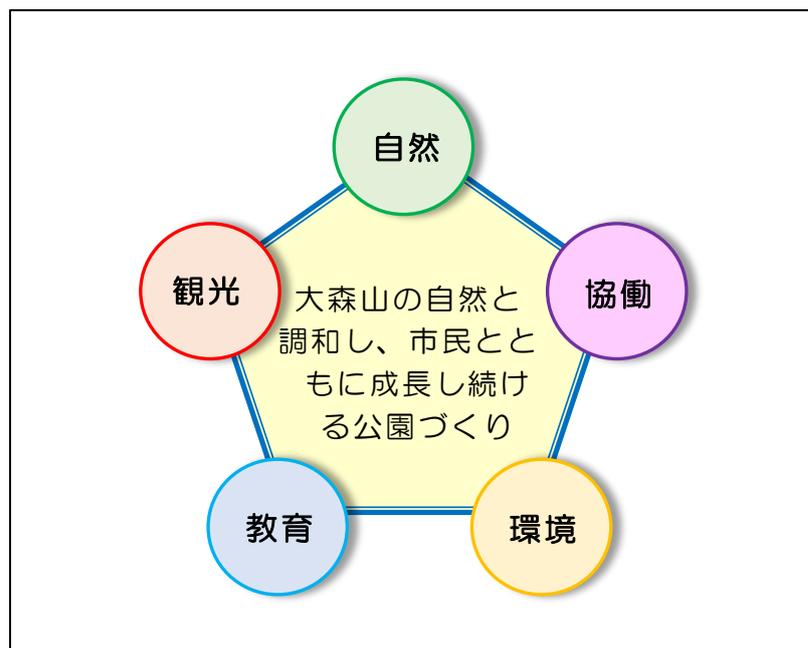
問題点	課題	施策の方向性
入園者数の減少、施設老朽化	公園の魅力を向上させ、入園者数、交流人口を増加させる。	にぎわい創出
急傾斜、低未利用地	公園全体を利活用し、利便性を向上させ、バリアフリーに配慮する。	回遊性創出、移動円滑化
飼育展示動物の高齢化、運営管理人材の不足	将来にわたって動物園を維持管理運営していくための管理運営方法の改善、人材確保、人材育成を進める。	持続可能な動物園運営管理

## 2. 整備方針

### 2.1 コンセプトと整備方針

大森山公園整備のコンセプトと整備方針の基本的な考え方は、整備構想を継承します。コンセプトは「大森山の自然と調和し、市民とともに成長し続ける公園づくり」とし、整備方針は公園の現状等を踏まえながら、「自然」、「観光」、「教育」、「環境」、「協働」の5つの分野別に決めました。

■大森山公園整備のコンセプトの概念図



### ■分野別の整備方針

#### 自然 ～自然とともに息づく動物園の再整備～

「自然」の分野では、地形や既存の植生を生かし、環境を保全しながら、必要な動物展示施設や公園施設などを整備する必要があります。

このため、公園内の核となる大森山動物園の園路改修や老朽化した飼育施設について、動物が持つ本来の行動が再現できるような飼育展示環境の整備を進めるとともに、塩曳潟の環境保全等について自然と調和した整備を進めます。

- ◆整備施設は自然環境、景観に配慮し、自然と調和したデザイン、形態とします。
- ◆動物の本来の行動が発現できる飼育展示環境を整備するとともに、来園者が快適に楽しめる展示空間を整備します。
- ◆四季折々の自然が楽しめるように「秋田の郷土の森」を再生します。
- ◆貴重な生物が生息する「塩曳潟（しおひきがた）」と周辺の自然環境を保全します。

## 観光 ～新たな魅力による観光拠点としての再生～

「観光」の分野では、大森山公園の魅力を一層高めるとともに、近隣の施設等や民間企業と協力、連携し、交流人口の増加とにぎわいの創出を図っていく必要があります。

このため、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮しながら、大森山動物園、大森山公園グリーン広場、キャンプ場、大森山山頂の展望台等の再整備を進めるとともに、混雑時の渋滞緩和対策や、十分な駐車スペースの整備を進めます。

- ◆動物園と遊園地、公園が一体となった観光拠点として位置づけ、滞在時間の延長、集客力の向上を図ります。
- ◆市内の観光施設、民間企業と連携したタイアップイベント、周遊ルートの企画等、交流人口の拡大を推進します。
- ◆秋田公立美術大学と連携し、公園を活用したギャラリー等、アートな動物園づくりを進めます。また、国際教養大学と連携し、インバウンド需要に対応した取り組みを進めます。
- ◆音楽やプロスポーツ選手との交流など、多様なイベントを開催し、幅広い来園者層の集客を図ります。
- ◆展望台へのアクセス性を高め、山頂からの”眺め”を市民や観光客の幅広い年齢層に提供します。

## 教育 ～新たな魅力による観光拠点としての再生～

「教育」の分野では、豊かな自然や、動物をふれあうことのできる環境を生かし、希少魚類の生息域内保全に努めるとともに、将来にわたって子どもたちの人間形成に資する体験学習の場を拡大していく必要があります。

このため、自然の生態を学ぶことができる公園としての整備を進めるとともに、環境学習の場として大森山動物園の利用促進を図ります。

- ◆塩曳潟（しおひきがた）に生息する希少種「ゼニタナゴ」と関係性の深い生物の生息環境を保全するとともに、生息環境が観察できる“自然生態園”を整備します。
- ◆動物とのふれあいや観察、飼料作物の栽培等、”楽しく学べる”体験学習”と”環境教育”の場を提供します。

## 環境 ～資源循環システムの構築とエコへの挑戦～

「環境」の分野では、資源の適正な管理と循環的な利用等の推進が求められており、資源循環型社会の構築を目指していく必要があります。

このため、大森山公園においても新エネルギー、省エネルギーの導入などの検討を進めます。

- ◆飼育展示動物のえさとなる飼料作物の栽培のために動物の糞やワラ屑、落ち葉を堆肥化し、園内での資源循環型システムの構築を進めます。
- ◆再生可能エネルギー、省エネルギーシステムの導入に努め、低炭素型社会の実現に寄与します。

## 協働 ～市民や企業との協働により成長し続ける施設の構築～

「協働」の分野では、地域ぐるみの情報発信、にぎわいづくりや新たな来園者層の開拓に効果的、効率的に取り組んでいくため、地域や民間の活力を活用していく必要があります。

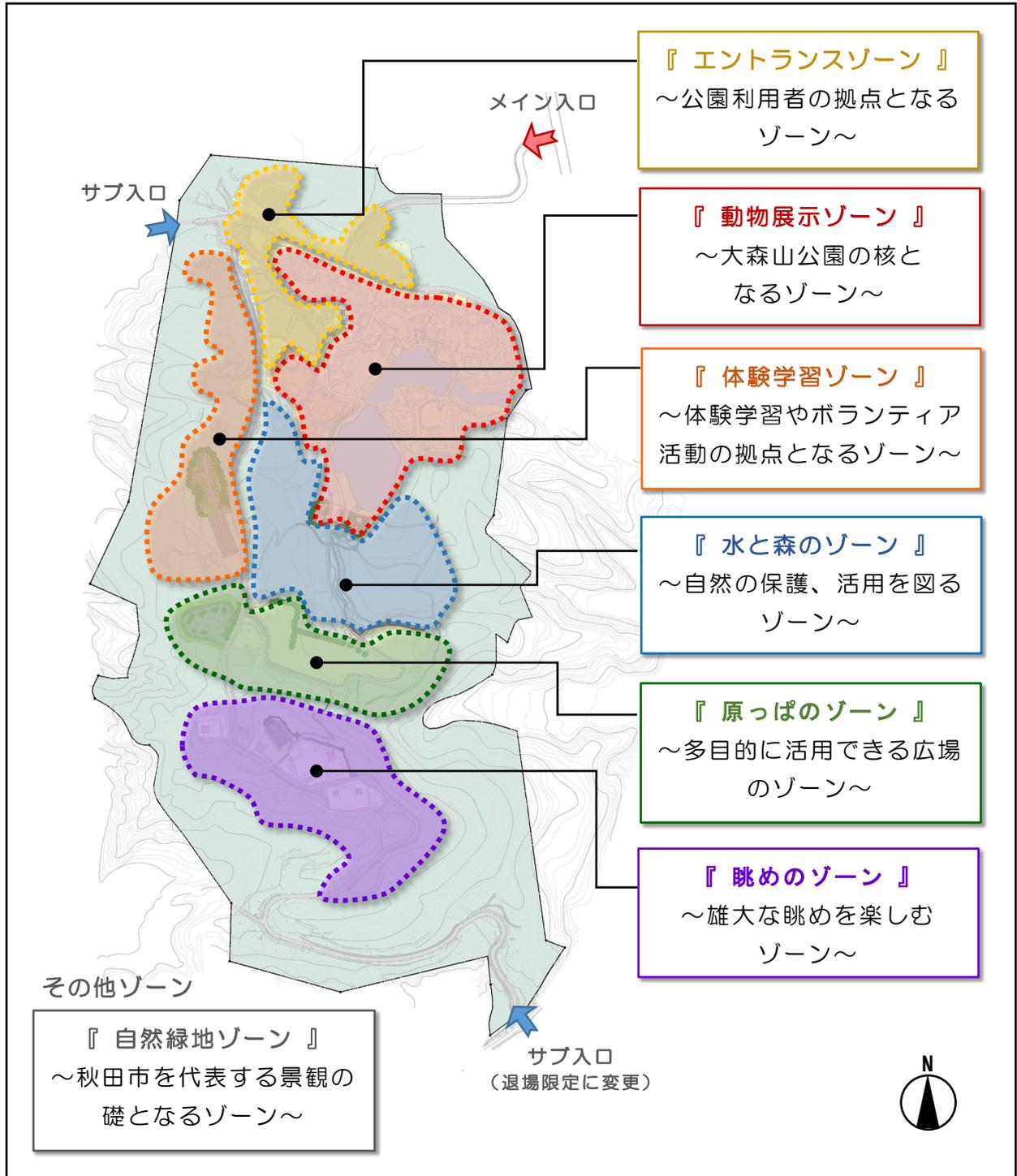
このため、多様なボランティア団体の活動を受け入れるほか、地元企業、周辺施設、教育機関との連携を強化します。

- ◆平成 25 年度設立の「大森山動物園応援会」や動物園ボランティアの「たいようの会」、MyZoo ガーデナーとの連携を強化するほか、市民や企業、学校、地域などとの協力体制の構築を図ります。
- ◆動物園と園内で営業する事業者等とが構成する「大森山公園、動物園連絡会」の活動を強化し、更なるにぎわいを創出します。
- ◆管理運営から施設の整備に至るまで、多様なボランティアの活動を受け入れられる体制の構築を図ります。

## 2.2 ゾーニング計画

公園全体で7つのゾーンを設定し、ゾーニングごとに特色を生かした整備方針とします。  
 下図に公園全体のゾーニングとその位置づけを示します。

■ ゾーニング計画図

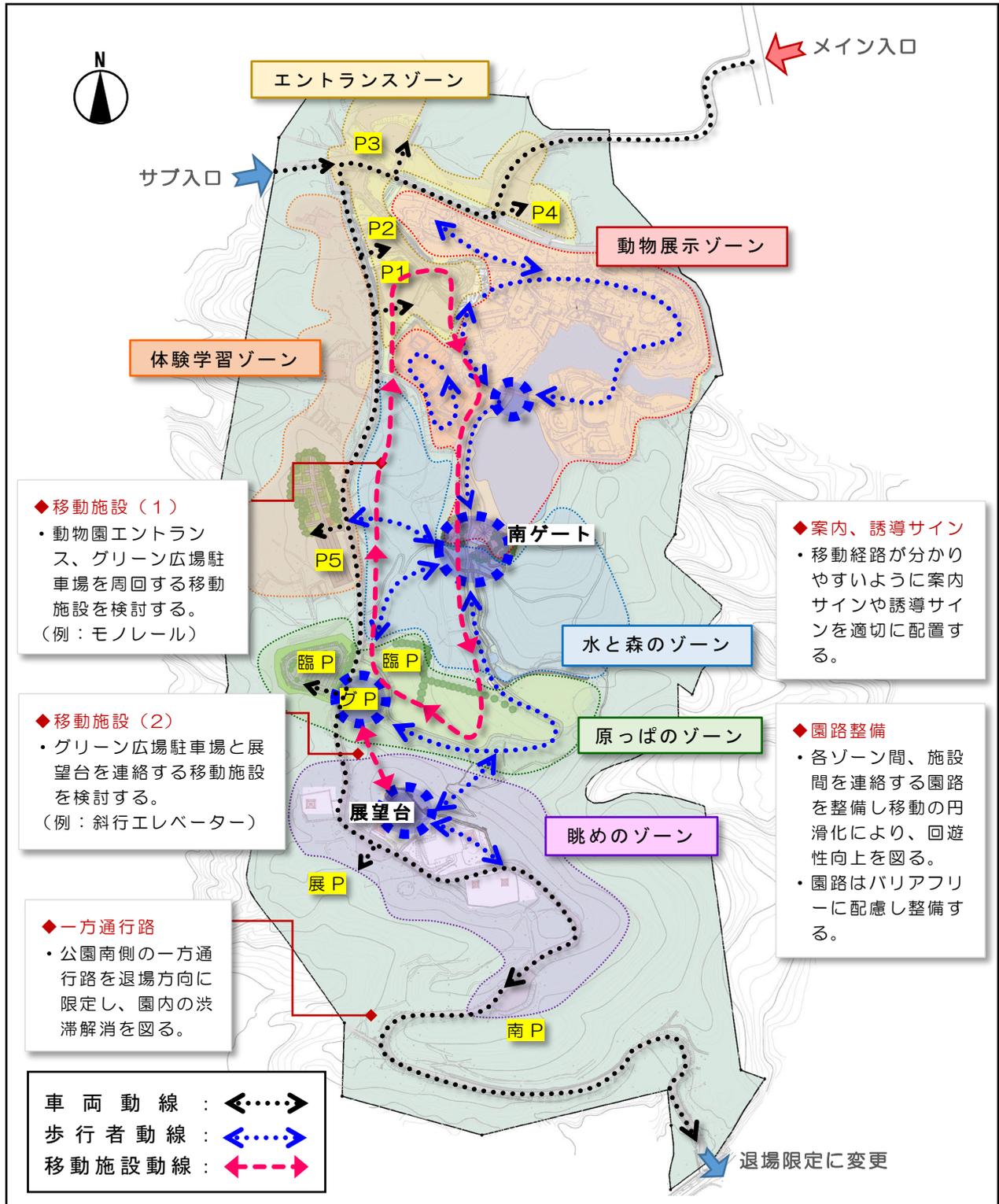


## 2.3 動線計画

園路の整備や移動施設の導入により、各ゾーン間、施設間の移動を円滑化し回遊性の向上を図ります。また公園南側の一方通行路など公園通路の交通処理を再整備し、渋滞解消を図ります。

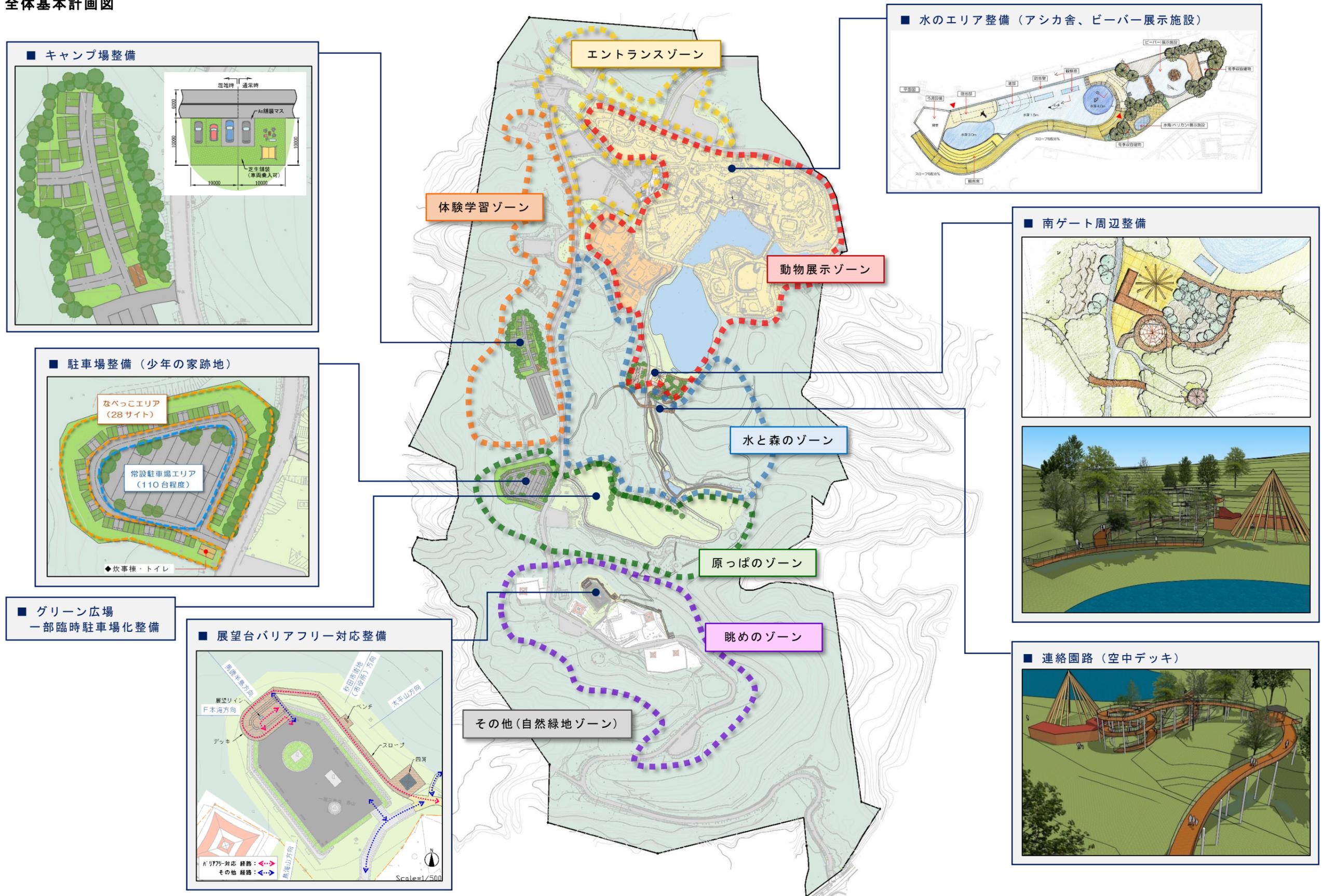
公園全体の動線計画を下図に示します。

■ 動線計画図



3. 基本計画

3.1 全体基本計画図



### 3.2 エントランスゾーン

#### 【整備方針】

わくわく感がある動線とだれもが気軽に利用でき、便利で魅力ある空間を整備します。周辺道路からのビジターセンターに至る景観、施設配置に配慮します。



#### 【観光】

- ・冬期や夜間利用に対応した快適な歩行空間とします。
- ・ビジターセンターに多様な属性をもつ来園者に対応した便益機能を整備し、ゲートの利便性を向上させます。

#### 【自然】

- ・エントランスゾーンに至る導入路沿いに、四季を演出するサクラなどの花木や紅葉樹を植栽し、秋田の自然が感じられる空間とします。

#### 【協働】

- ・地元振興会、秋田公立美術大学および新屋ガラス工房と相互に連携し、イベントや商品開発などに企画段階から協働で取り組む体制づくり、商品販売や情報発信を検討します。

#### 【教育】

- ・ビジターセンターに動物の生態や、大森山公園内の動植物の展示を設置し、環境教育に資するコーナーを設置します。

#### 【環境】

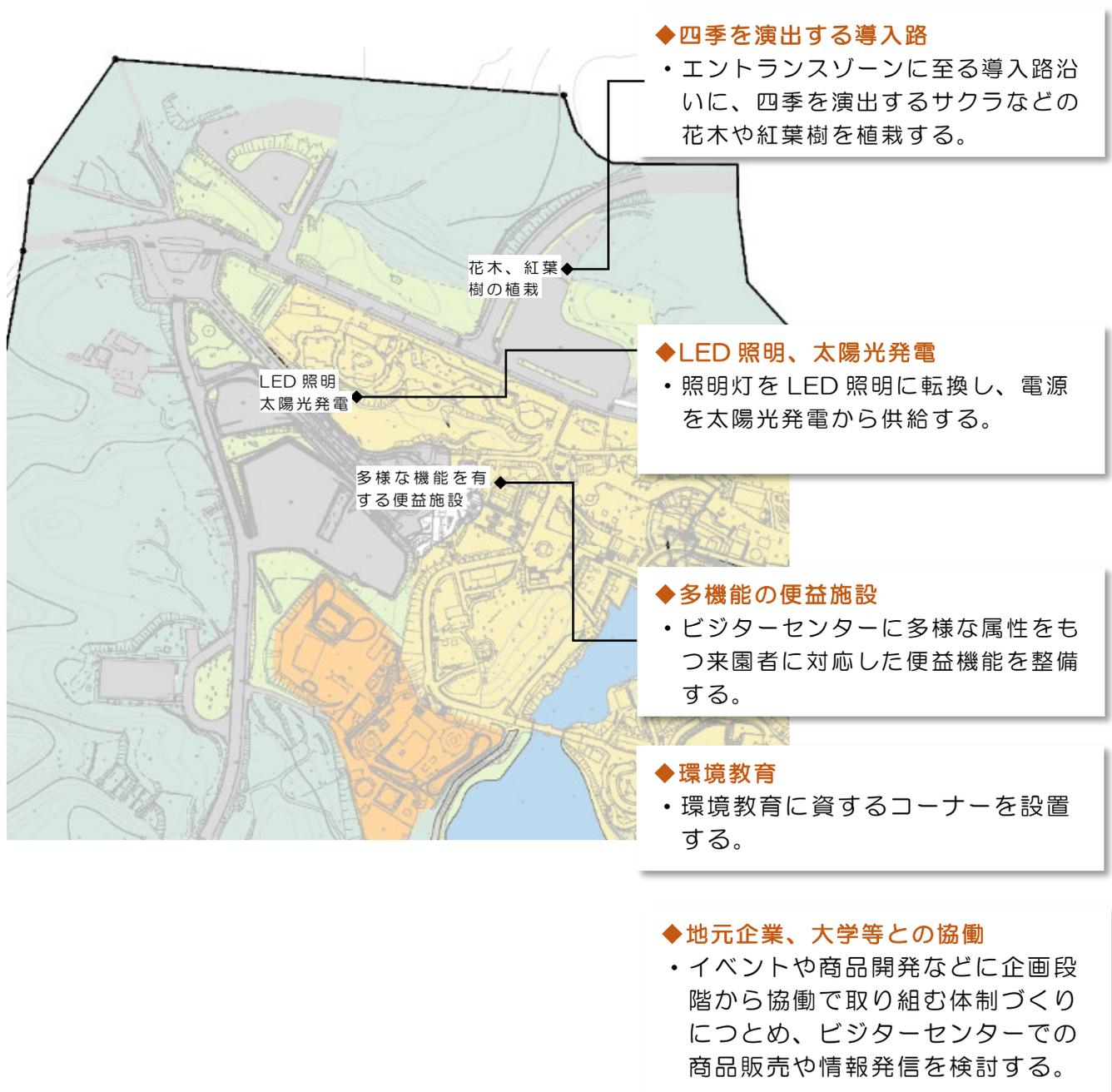
- ・夜間利用に配慮した街路等をLED照明にするとともに、電源を太陽光発電からの供給に転換し、再生可能エネルギー、省エネルギーに配慮します。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・集客力を高めるために、公園、動物園のエントランスとしての景観的な演出と利便性を向上させます。
- ・地域経済活性化のために、ビジターセンターにおいて民間企業との連携を図り、商品販売や情報発信を検討します。
- ・大森山の景観と自然を保全するために、サクラの植樹や管理を行います。

### 3.2.1 エントランスゾーンの整備計画

#### ■イメージ図



### 3.3 動物展示ゾーン

#### 【整備方針】

人と動物が安全快適で動物福祉に配慮した空間を整備します。また、鳥インフルエンザウイルス感染などの防疫体制の強化を図ります。



#### 【観光】

- 利用者が移動しやすいユニバーサルデザインとバリアフリー化を図ります。
- 通年開園を視野に入れ、冬期や夜間にも対応した施設と空間づくりを図ります。

#### 【自然】

- 環境エンリッチメントや行動エンリッチメントのもと、より近くで生き生きとしたダイナミックな姿を展示し、小さな子どもからも見やすい空間とします。

#### 【協働】

- 民間活力を活用し、来園者が楽しめるようなわくわく感のある新たな施設整備を検討します。

#### 【教育】

- 大型遊具や野外ステージが利用しやすい学びと遊びの楽しい空間となるよう、動物に関する資料展示と休憩や飲食ができる施設の整備を検討します。

#### 【環境】

- 塩曳潟の水辺や水質改善など水環境の整備に努めます。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- 集客力を高めるために、老朽化したアシカ展示施設を環境エンリッチメント、行動エンリッチメント、バリアフリーに配慮して改修します。
- 公園全体が利活用できるよう、塩曳潟の南側にゲートを整備し、回遊性を向上させます。
- 秋田の郷土の自然を体験、学習できる場所として、小動物園を整備します。
- 地域経済活性化のために、民間企業との連携を図り、動物園内でのイベント等を検討します。

### 3.3.1 南ゲート整備計画

#### 【整備コンセプト】

- ・小動物園とグリーン広場、展望台を連携するゲートを設置します。

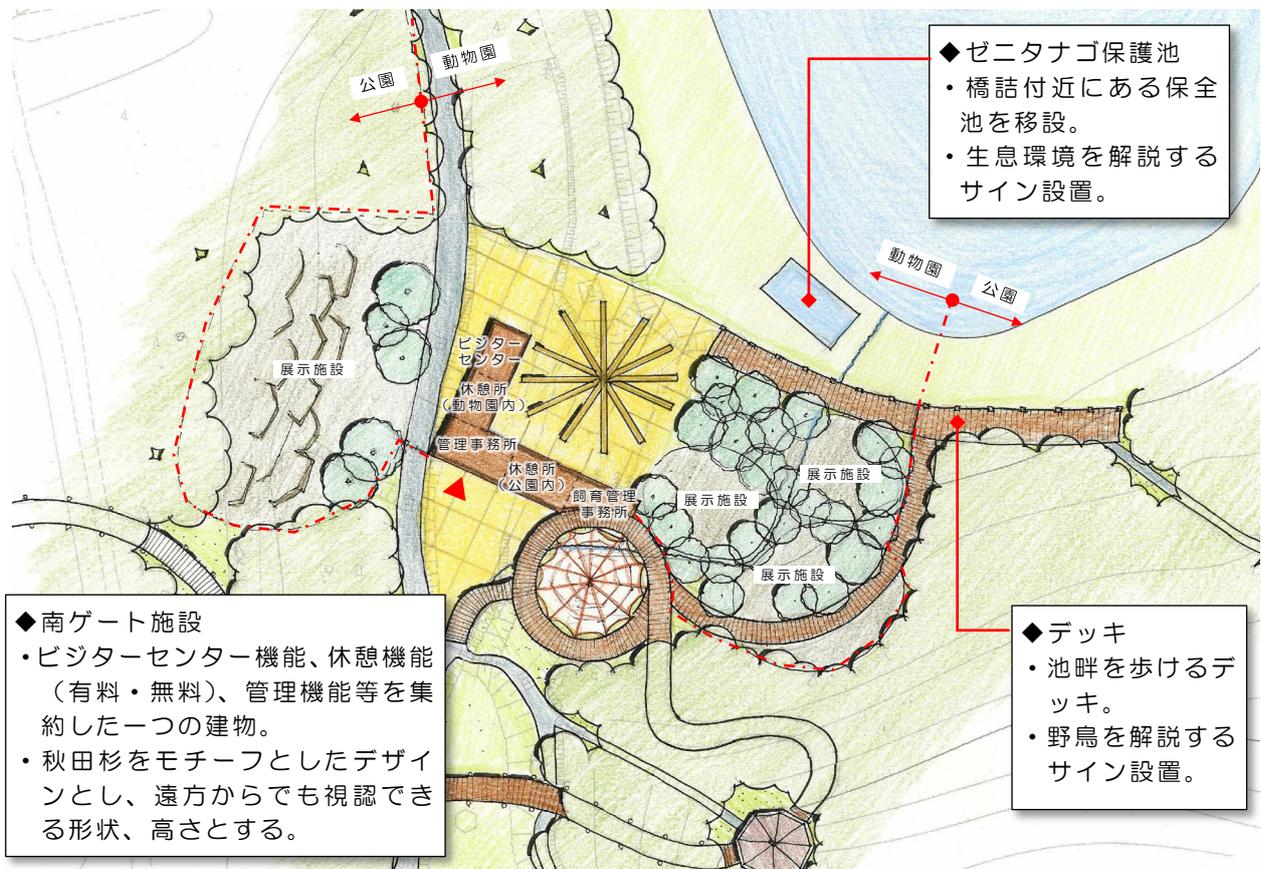
#### 【整備計画】

- ・エリアは「秋田の郷土の森」として、森の中に動物が生息している環境を展示する施設とします。
- ・動物園を楽しんだ利用者が休憩、郷土の自然が学べるビジターセンターとして機能できる施設とします。
- ・建築物はビジターセンター機能、休憩機能（有料・無料）、管理機能等を集約した一つの建物とします。

#### 【整備イメージ】

- ・自然環境、森の景観に調和するように、地場産材を活用した施設とします。
- ・園内に植栽する樹木は、秋田県内に植生する樹種を採用します。

#### ■小動物園周辺の施設イメージ図





【塩曳瀧からの南ゲート整備イメージ】



【西側上空からの南ゲート整備イメージ】

### 3.3.2 水のエリア

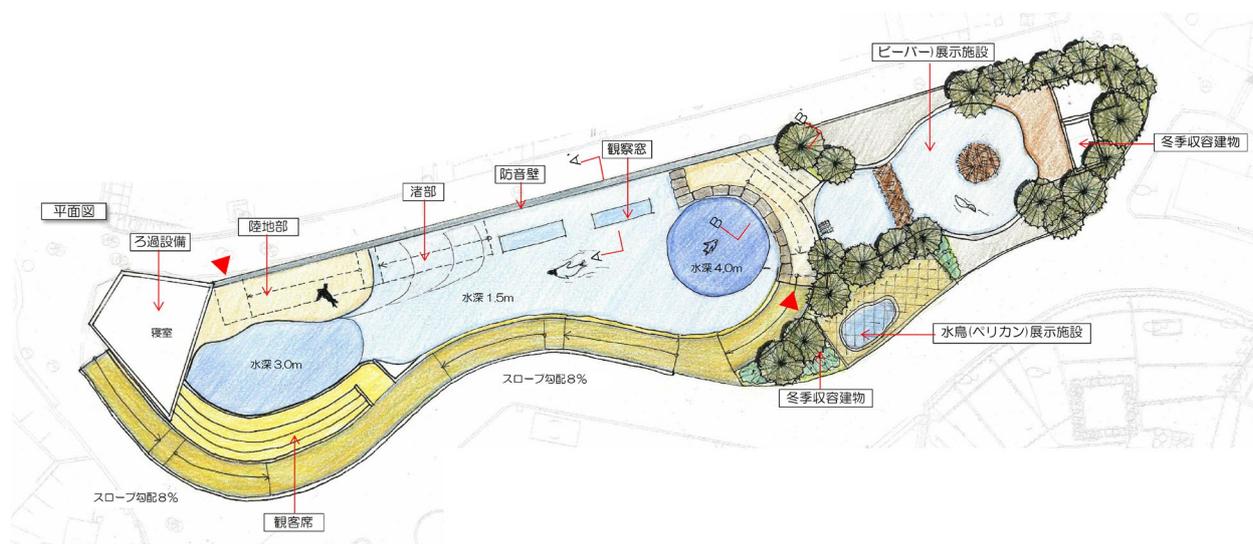
#### 【整備コンセプト】

- ・北米の森から海岸へと水の生態系でつながる環境のなかで生息する動物たちを展示します。(針葉樹の森からカリフォルニアの海へ)
- ・アシカ本来の生態に近いハーレム(♂1頭、♀数頭)で飼育できるプールの面積、容積、水深を確保します。
- ・ビーバー舎はダムづくりができるように十分な広さの池を確保し、カナダガン等との同時展示ができる施設を併設します。

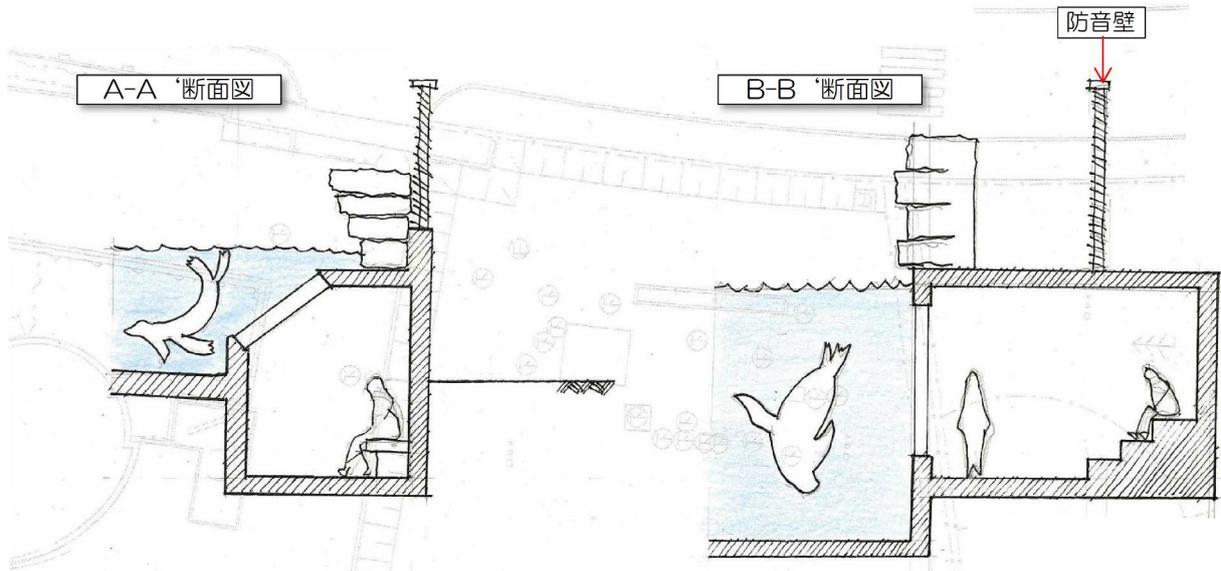
#### 【整備計画】

- ・現在のアシカ舎およびビーバー展示施設の位置にアシカ舎を新設します。(ビーバー展示施設は東側へ移設)
- ・冬季、雨天時、夏の暑い時期にも快適に観察できるように建物内部での観察空間を整備します。
- ・アシカの泳ぐ様子が観察できるようにアクリル水槽的な箇所を設けます。
- ・プールへの導入路はバリアフリーに配慮して8%勾配、幅員2.5mを確保します。
- ・現アシカ舎北側園路にはインフラ幹線が集中しているため、埋設管を侵さない配置とします。
- ・夏季の日射を軽減させるため、観覧スペースに膜構造の屋根を設置します。

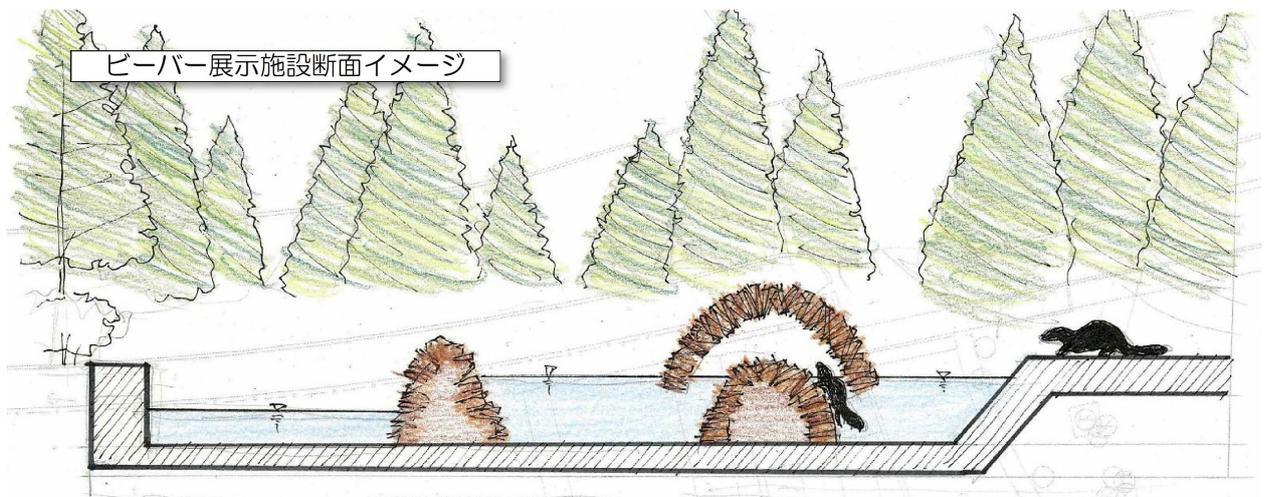
#### ■水のエリアイメージ図



【整備イメージ】



【アシカ展示施設断面イメージ】



【ビーバー展示施設断面イメージ】

### 3.4 水と森のゾーン

#### 【整備方針】

豊かな既存林の緑と多様な生態系を保全し、大森山山頂からの眺めを生かした散策、観察とそこから生まれる素材、資源を利用し、自然とふれあいながら観察できる空間とします。



#### 【観光】

- ・ 原っぱゾーンと動物展示ゾーンとを結ぶゾーンとして、南ゲートに併設した休憩コーナーを整備します。
- ・ 彫刻の森の再整備により観賞価値を高めます。
- ・ 園内移動施設やデッキ等により園内移動の円滑化を図ります。

#### 【自然】

- ・ 塩曳潟の水辺と上流の湿地植生域と自然樹林を活用し、ゼニタナゴとそれに関連する生物の保護や秋田の森に生息する小動物が棲む空間を演出し、ホタルが観察することができる空間を創出します。

#### 【協働】

- ・ 大森山の自然を生かしながら、子どもたちの遊びや体験学習などを支援するボランティアの活動拠点を整備します。

#### 【教育】

- ・ ゼニタナゴと共生関係にある二枚貝やさらに二枚貝が寄生するヨシノボリといった生態系のつながりを通じて、生き物の生態や保護について学べる場を創出します。また、自然再生や環境創出を、自らが参加しながら体験できる場を創出します。

#### 【環境】

- ・ 可能な限りユニバーサルデザインに努め、大きく地形の改変を伴う場合などは階段とし、手摺りを設置するなどバリアフリー対応とします。また、自然や自然系の素材を使用し、自然にとけこむよう整備します。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・ グリーン広場、展望台等への利用者を増やすため、移動施設や園路を整備します。
- ・ 大森山、塩曳潟および周辺の自然環境を保全するため、環境保全対策を図るとともに、環境教育の場を整備します。

### 3.4.1 水路周辺整備計画

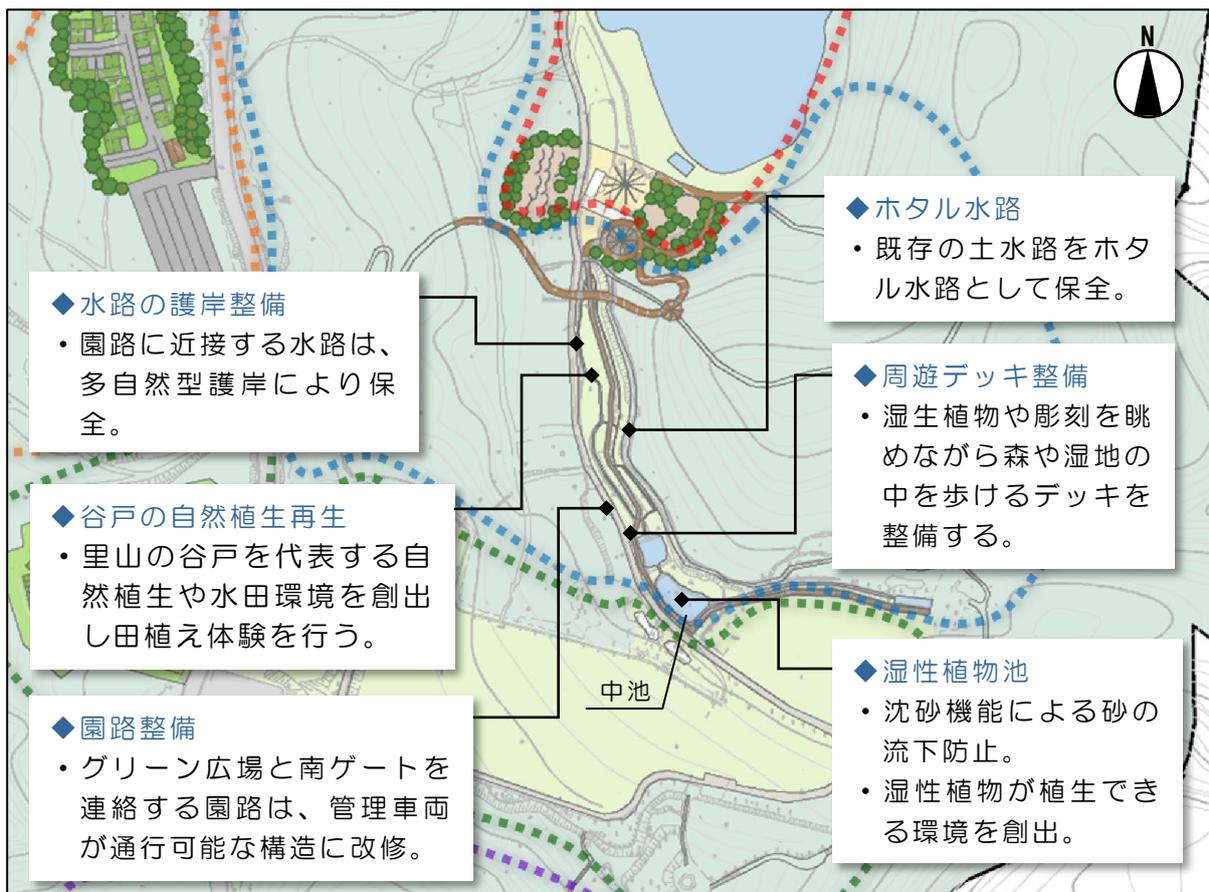
#### 【整備コンセプト】

- ・あるべき自然環境を創出し、塩曳潟と周辺の湿地環境をセットとした水域生態系の保全を図ることで、環境学習の場を提供します。

#### 【整備計画】

- ・グリーン広場と南ゲートを連絡する園路は、管理車両が通行可能な構造で整備します。
- ・水路は多自然型護岸、道路や水路の耐久性と、ホタル等の生息環境保全の両立を図ります。
- ・中池は、グリーン広場からの排水の沈砂池として機能させることで、塩曳潟や周辺水路に生息する生物の生息環境を保全します。
- ・里山の谷戸を代表する、樹木や湿性植物などの自然植生や水田環境を再生します。また、これらを観察するためのデッキ（木道）を湿地や水路に沿って配置します。

#### ■水と森のゾーン全体の整備イメージ図



【整備イメージ】

- ・ 周遊デッキは、木製デッキなど周辺の景観と調和するデザインとします。
- ・ 水路の護岸は必要最小限とし、管理用道路が接する区間において、多自然型の護岸（石積み護岸）により整備します。
- ・ 管理用道路の舗装は、透水性舗装とし湿地環境への地下水の浸透を図ります。
- ・ 中池はグリーン広場の雨水排水の流末として利用します。中池、下池は、出水時の沈砂、遊水機能を持たせ、塩曳潟への濁水の流入を防ぎます。
- ・ 里山の谷戸環境を代表する、樹木や湿性植物などの自然植生を再生します。また、水田を復元させることで、田植え体験や水田に生息する動植物の生息環境を創出します。
- ・ 既存の土水路をホタル水路として保全します。ホタル水路は魚類が侵入しにくい構造とします。
- ・ ゼニタナゴをめぐる生物間の共生関係に関する案内板を設置し、環境学習の場を設けます。
- ・ スギ等の人工林は、谷戸内および林床の明るさ確保や眺望などに配慮し、間伐など適正な維持管理を行います。

■水路周辺の施設イメージ図



### 3.4.2 南ゲート整備計画

#### 【整備コンセプト】

- ・空中デッキやループデッキによる移動により、ゾーン間の移動そのものの魅力を高め、来園者の回遊性を高めます。

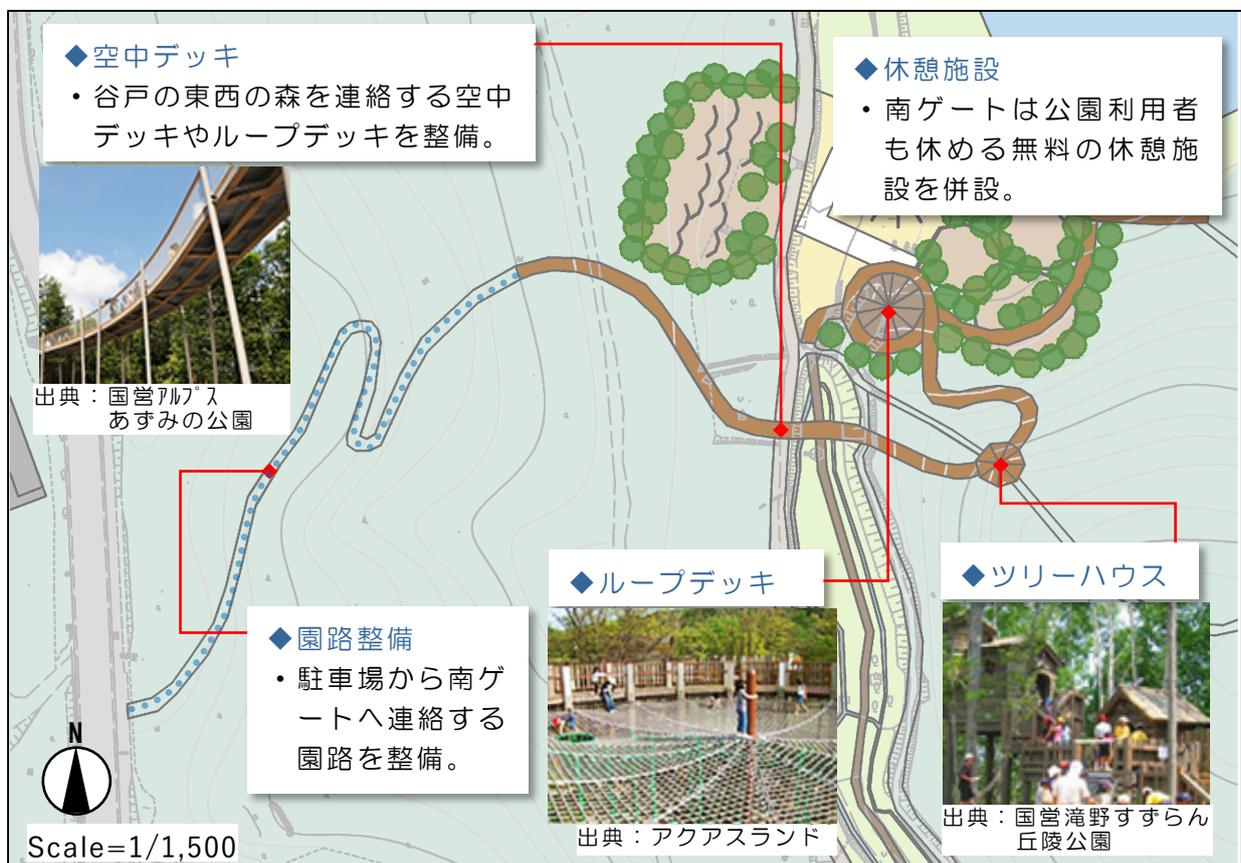
#### 【整備計画】

- ・第5駐車場側から南ゲートへ連絡する園路を整備します。
- ・南ゲートの東南側の導入部として東側のエリアを利用できるデッキを整備するとともに既存の園路を歩きやすい舗装材で再整備します。
- ・東側エリアと西側エリアを連絡する動線として空中デッキを整備します。
- ・南ゲートには、公園利用者も利用可能な無料の休憩施設を併設します。

#### 【整備イメージ】

- ・デッキやツリーハウスなどは、自然環境、森の景観に調和するような素材、色調とします。
- ・ループデッキの中心部にはネット遊具を設置します。空中デッキやツリーハウスの途中には樹林地内に生息、生育する動植物を解説するサインを設置します。

#### ■南ゲート周辺の整備イメージ図



### 3.5 原っぱのゾーン

#### 【整備方針】

豊かな既存林の緑に囲まれた広い原っぱを生かし、自然とふれあいながらみんなで楽しめる空間とします。



#### 【観光】

・グリーン広場については、各種イベントや交流の場として活用を図ります。

#### 【自然】

・身近に自然とふれあえる場として、整備、保全を図ります。

#### 【協働】

・グラウンドゴルフなどによる体力づくりや健康増進のための空間を創出します。また、広い広場を活用した市民や企業と協働したイベントなどを検討します。

#### 【教育】

・広い原っぱを思い思いに使える自由な空間を創出し、自然の中で手軽になべっこやバーベキューなどが行えるレクリエーションの場を整備します。

#### 【環境】

・芝生や周囲の樹林地は、適正な維持管理を行い、良好な景観を保全するとともに、雨水排水対策の実施により土砂の流出を防止し、塩曳湯の水質保全に努めます。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・集客力を高めるために、グリーン広場を各種イベント、レクリエーションの場として整備します。
- ・繁忙期の利便性を向上させるために、グリーン広場の一部を臨時駐車場化します。
- ・公園全体が利活用できるよう、既存園路の改修と移動施設を整備し、回遊性を向上させます。
- ・公園の基盤を保全するために、土砂流出防止対策を施します。

### 3.5.1 原っぱのゾーンの整備計画

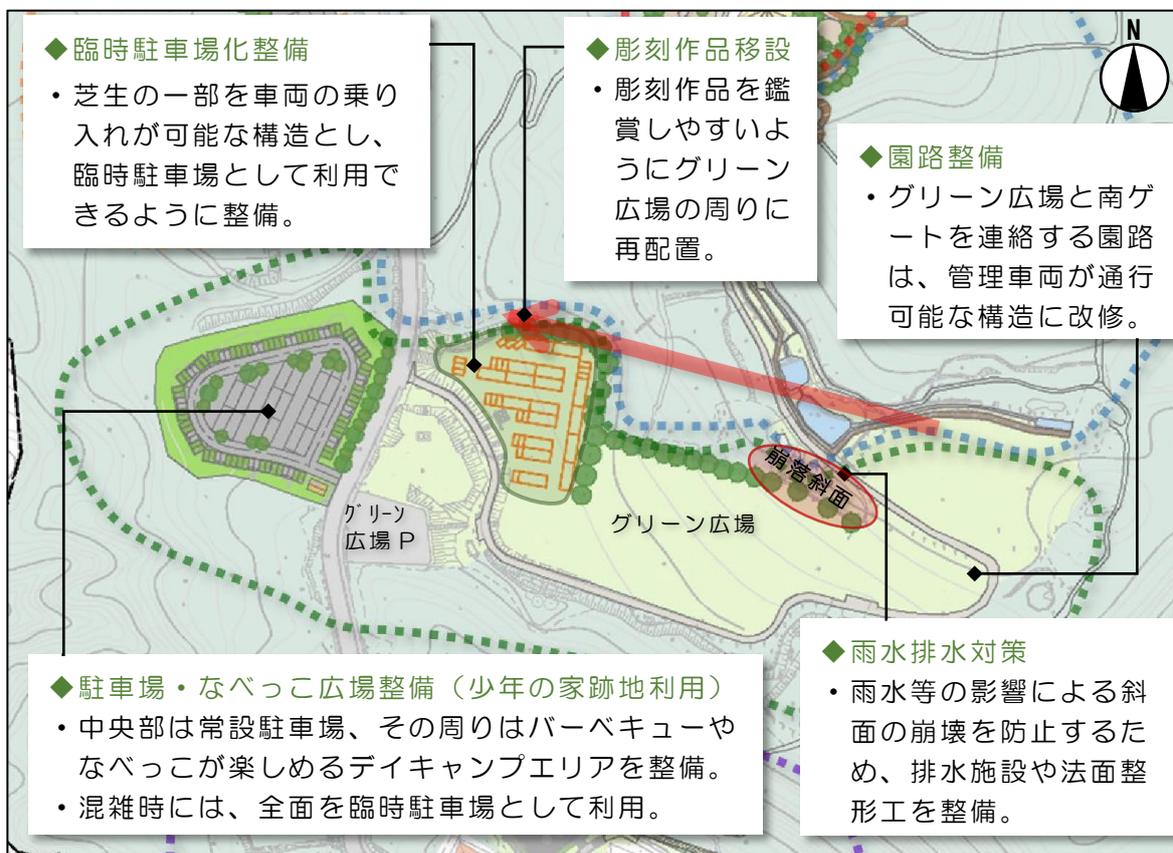
#### 【整備コンセプト】

- ・広い原っぱや樹林に囲まれた自然環境を生かしながら、駐車台数の不足や雨水排水などの問題解消を図りつつ、バーベキューなどのレクリエーションが楽しめる場を整備します。

#### 【整備計画】

- ・少年の家跡地は、中央部を常設駐車場（110台程度）、周辺部をバーベキューやなべっこが楽しめるデイキャンプエリア（28サイト）として整備し、混雑時には全面を臨時駐車場（170台程度）として利用します。
- ・グリーン広場は西側の一部の芝生を車両の乗り入れが可能な構造とし、混雑時に臨時駐車場（100台程度）として利用できるように整備します。
- ・グリーン広場の東側の彫刻は、グリーン広場の周りに再配置します。森の緑をバックに彫刻が鑑賞しやすいようにします。
- ・グリーン広場の雨水の影響により斜面の崩落が発生している箇所は、斜面上部に排水施設を整備するほか、法面整形工を兼ねた斜面遊具等を整備します。
- ・グリーン広場と南ゲートを連絡する園路は、管理車両が通行可能な構造に改修します。

#### ■原っぱのゾーン全体の整備イメージ図



【整備イメージ（駐車場、なべっこ広場整備）】

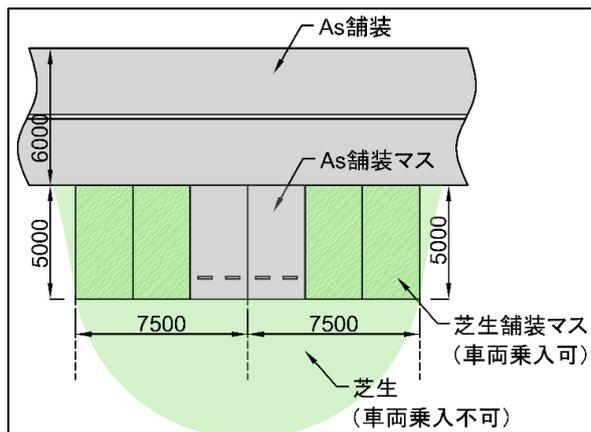
- ・中央部は 110 台程度の常設駐車場エリア、その周りになべっこエリアとして整備し、なべっこエリアにはデイキャンプサイト（28 サイト）のほか、炊事棟とトイレを整備します。

■ 駐車場、なべっこ広場施設イメージ

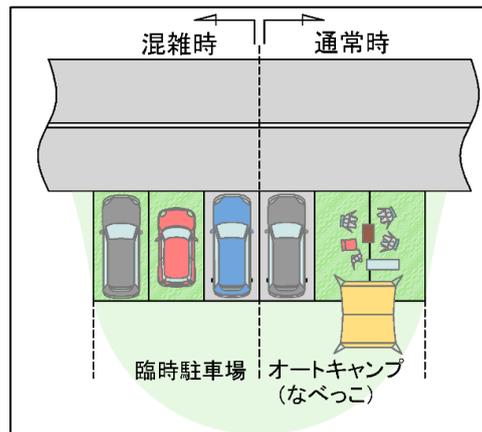


- ・通常時は「なべっこエリア」の As 舗装マスに駐車し、隣接した芝生舗装マスを利用してオートキャンプ場のように車の脇でバーベキューや“なべっこ”を楽しめるようにします。
- ・1つのキャンプサイトは、As 舗装マス 1 台と芝生舗装マス 2 台の計 3 台で構成し、芝生舗装マスの基盤材は耐圧基盤土壌等を使用し、車両の乗り入れが可能な構造とします。

■ デイキャンプサイトイメージ



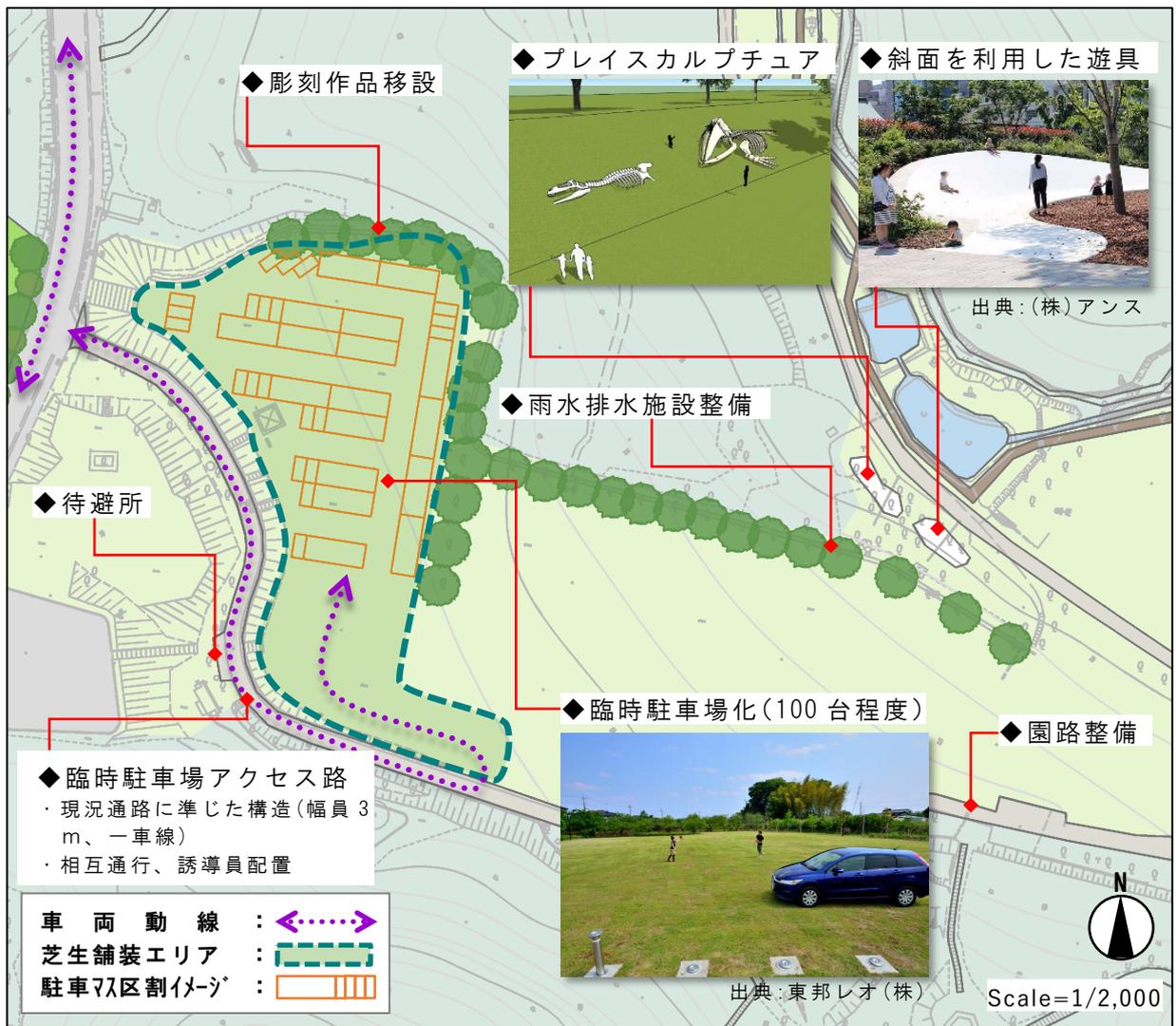
■ 利用イメージ



【整備イメージ（グリーン広場）】

- ・グリーン広場は西側の一部を車両の乗り入れが可能な構造の芝生舗装とし、混雑時には臨時駐車場として利用します。また、車両の乗り入れが可能な芝生広場として新たなイベントへの活用を検討します。
- ・臨時駐車場化するエリアは、大規模な造成を伴わない現況地形が緩やかな範囲とし、芝生広場としての利用への影響は最低限に抑えます。
- ・臨時駐車場へのアクセス路は、現況園路に準じた構造（一車線、幅員 3m）とし、誘導員を配置し相互通行により入退場をするものとします。
- ・臨時駐車場化整備にあたっては、地下排水施設の設置など雨水排水対策を考慮するものとします。
- ・雨水の影響により斜面が崩落している箇所は、斜面上部に雨水排水施設を整備するとともに、斜面には法面整形工を兼ねた遊具等（プレイスカルプチュア）を整備します。
- ・プレイスカルプチュアは、動物や恐竜の骨をかたどった造形とし、乗ったり滑ったりして遊べるような整備を検討します。

■グリーン広場施設イメージ



### 3.6 眺めのゾーン

#### 【整備方針】

大森山山頂からの眺めを生かした散策、観察ができる空間とします。



#### 【観光】

- ・景色をゆっくり楽しみ、くつろげる空間を創出します。
- ・山頂から周辺を結ぶ散策路を整備します。

#### 【自然】

- ・展望台の園路沿いに草花を植栽するなど、展望台までの距離や階段を感じさせないように演出します。

#### 【協働】

- ・展望台やその周辺を市民と協働して草花を植栽するなど、市民参加による整備を検討します。

#### 【教育】

- ・秋田市内や周辺を気軽に一望できる大森山の地形を活かし、景色を楽しみながら郷土の地勢を感じ、郷土への愛着を育む場として整備します。

#### 【環境】

- ・展望台周辺の樹林地は、適正な維持管理を行い、良好な景観を保全するとともに、眺望の確保に努めます。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・集客力を高めるために、休憩スペースや眺望を説明するサインを設置します。
- ・利便性向上のために、展望台へのスロープ、身障者用駐車スペースを整備し、バリアフリー化を進めます、
- ・公園全体が活用できるように、展望台への移動施設を整備し回遊性を向上させます。
- ・展望台周辺の自然環境を保全し、良好な景観と眺望を確保します。

### 3.6.1 眺めのゾーンの整備計画

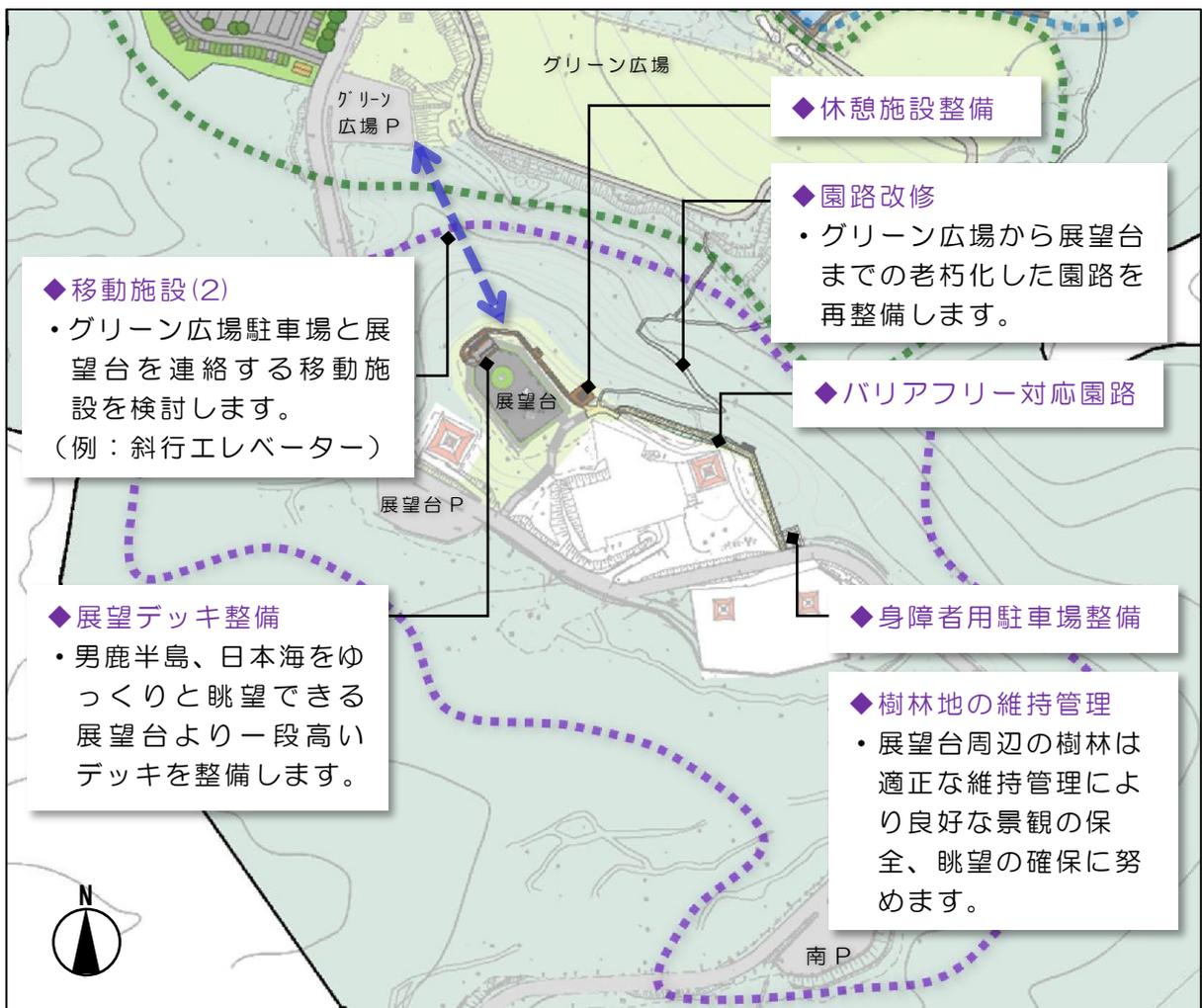
#### 【整備コンセプト】

- ・誰もが景色をゆっくりと楽しめるバリアフリーに配慮した展望施設とします。

#### 【整備計画】

- ・展望台の南東側約 120m の位置に身障者用駐車場（2 台）を設置します。
- ・展望台の北西（男鹿半島、日本海方向）に一段高い展望デッキを整備します。
- ・身障者用駐車場から展望デッキまでをバリアフリーに対応した経路とします。
- ・展望台の東側には、スロープを整備し展望デッキに接続します。
- ・バリアフリーに対応した経路の途中には、四阿やベンチ等の休憩施設を整備し、休憩しながら展望台まで移動できるものとします。
- ・グリーン広場駐車場と展望台を連絡する移動施設の整備を検討します。

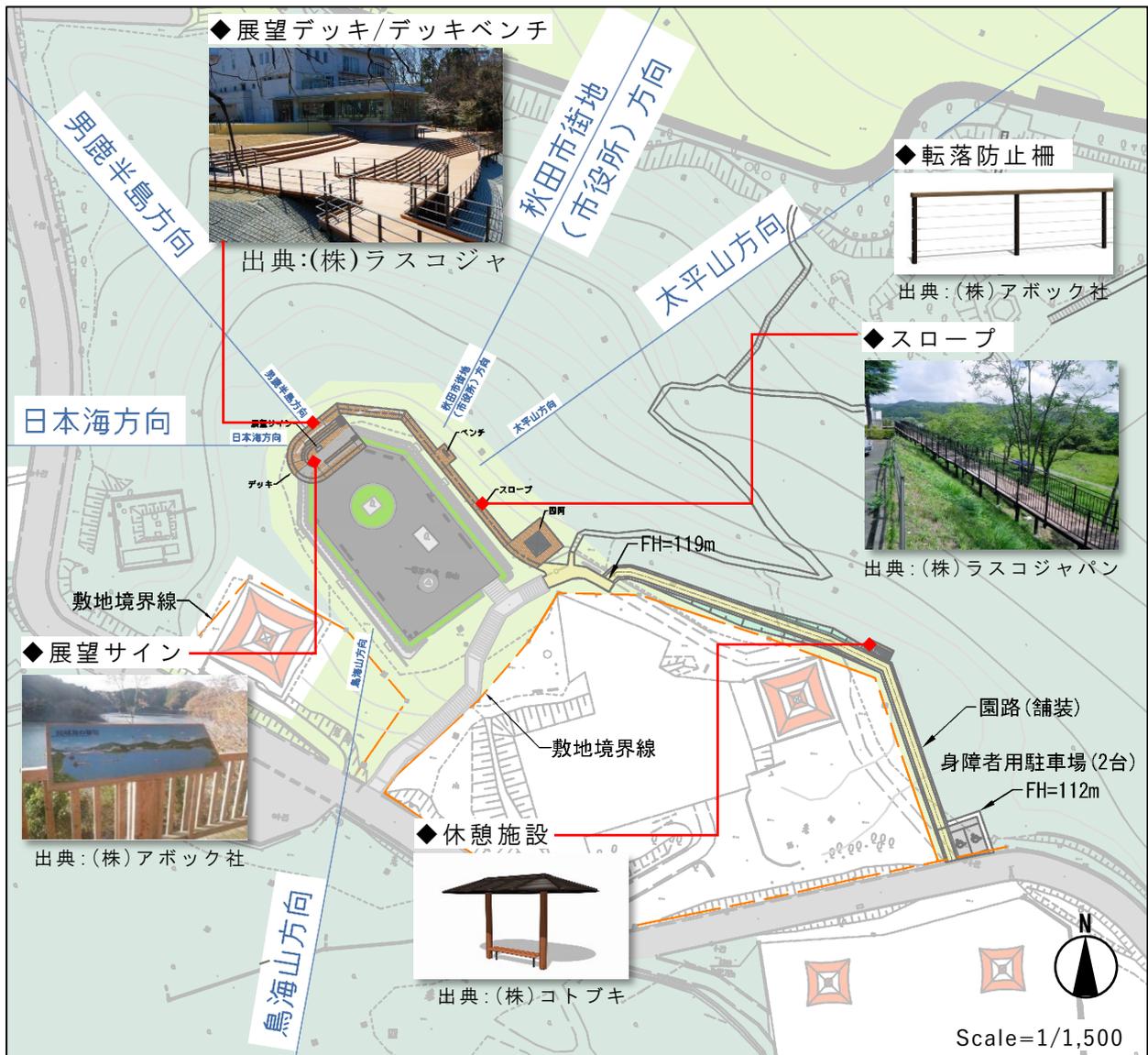
#### ■眺めのゾーン全体の整備イメージ図



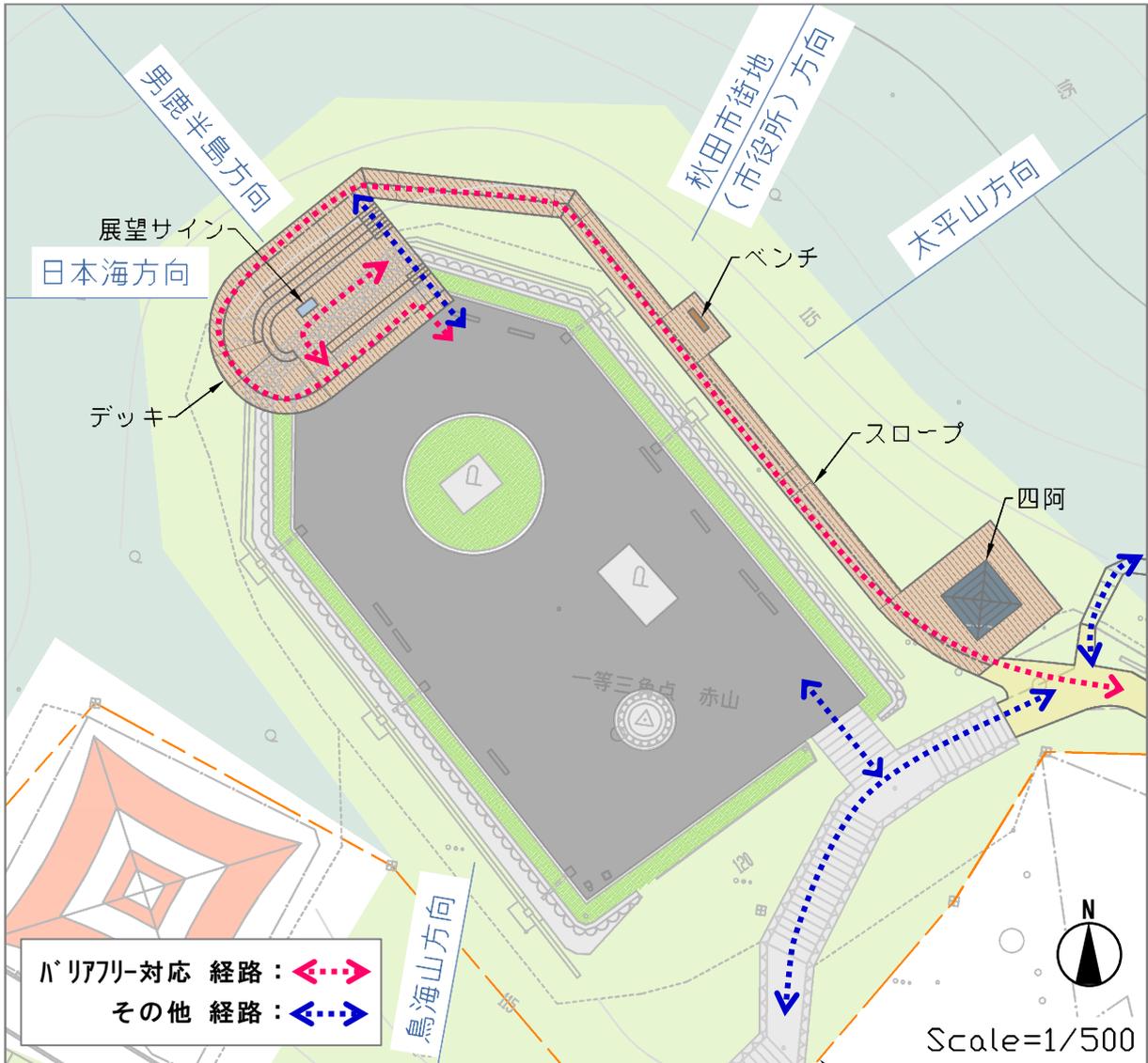
【整備イメージ】

- ・展望デッキは座りながらゆっくりと景色を楽しめる施設とするため、男鹿半島や日本海を望む方向に階段状のデッキベンチを設置します。
- ・展望デッキおよびスロープの素材および色調は、周囲の景観と調和するものとします。
- ・展望デッキおよびスロープの転落防止柵は、眺望を阻害しないデザインとします。
- ・展望台の舗装の段差やひび割れは、車いす利用者や高齢者の通行の支障となるため、補修や再舗装により解消を図ります。

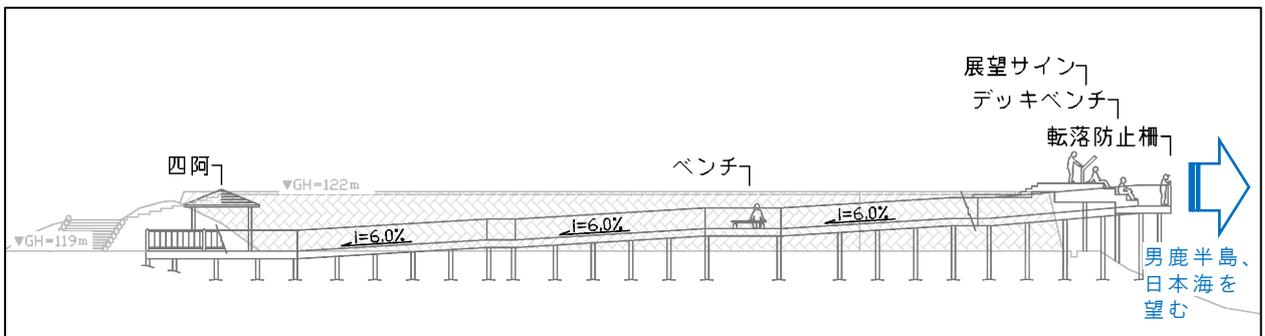
■眺めのゾーン施設イメージ図



■ バリアフリー対応経路イメージ図



■ 展望台整備イメージ側面図(北東側)



### 3.7 体験学習ゾーン

#### 【整備方針】

大森山公園の豊かな自然と海を眺めながら、そこから生まれる素材や資源を利用し、自然の循環、再生について学習できる空間とします。



#### 【自然】

・キャンプ場や森林アクティビティなどは、大森山の自然を感じながら、楽しめる場として整備します。

#### 【観光】

・キャンプ場は、家族やグループが安心して楽しく利用できるよう、より快適で魅力ある施設へ再整備します。また、キャンプ場の南側の森林を活用した森林アクティビティを検討します。

#### 【協働】

・大森山の自然を生かしながら、子どもたちの遊びや体験学習などを支援するボランティアの活動拠点を整備します。

#### 【教育】

・園内から発生する動物飼育上発生する有機物を資源として活用し、循環再生を学習(楽習)できる体験学習の場を整備します。

#### 【環境】

・公園管理事務所に園内の草花の圃場と堆肥づくりの管理スペースを併設し、資源循環システムの構築へ取り組む場を整備します。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・集客力を高めるために、平常時はオートキャンプ場、繁忙期は駐車場として利用できる施設を整備します。
- ・公園全体を利活用してもらうため、移動施設の拠点を整備し、回遊性を向上させます。
- ・大森山の自然の中で活動、学習できるよう、民間企業との連携を図り、ボランティア活動、森林アクティビティのできる場とします。
- ・自然環境を保全するため、資源循環システムのできる場とします。

### 3.7.1 体験学習ゾーンの整備計画

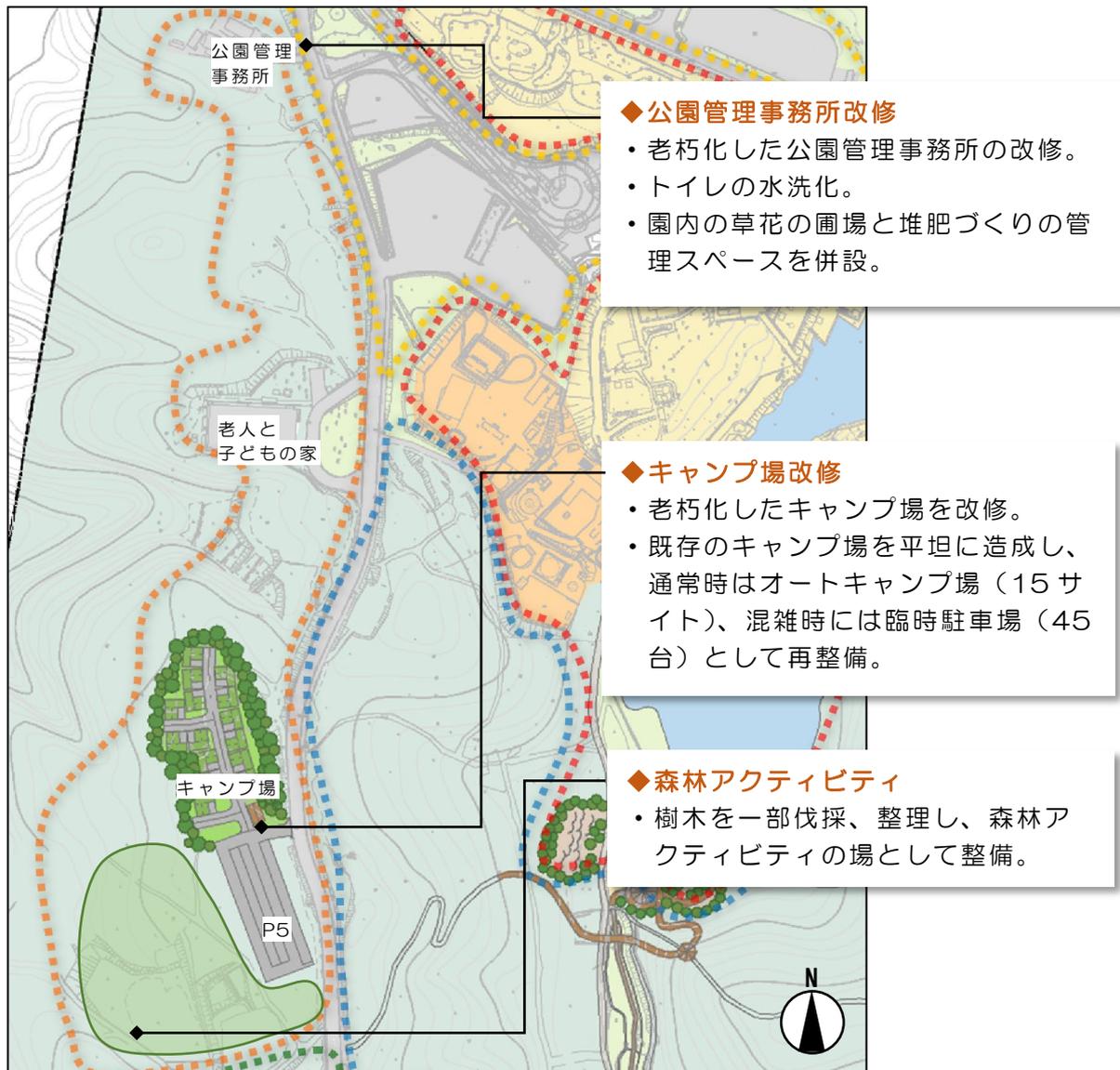
#### 【整備コンセプト】

- ・キャンプ場や公園管理事務所などの老朽化した施設を改修し、新たな機能を付加します。
- ・キャンプ場や森林アクティビティなど自然の中を感じながら楽しめる場を整備します。

#### 【整備計画】

- ・キャンプ場は、老朽化した施設を撤去しオートキャンプ場として再整備します。
- ・キャンプ場のトイレは、第5駐車場の利用者も利用しやすい配置とします。
- ・公園管理事務所は、老朽化した施設の改修やトイレの水洗化整備をします。
- ・公園管理事務所には、園内の草花の圃場と堆肥づくりの管理スペースを併設します。
- ・民間事業者との協働による、森林アクティビティの整備を検討します。

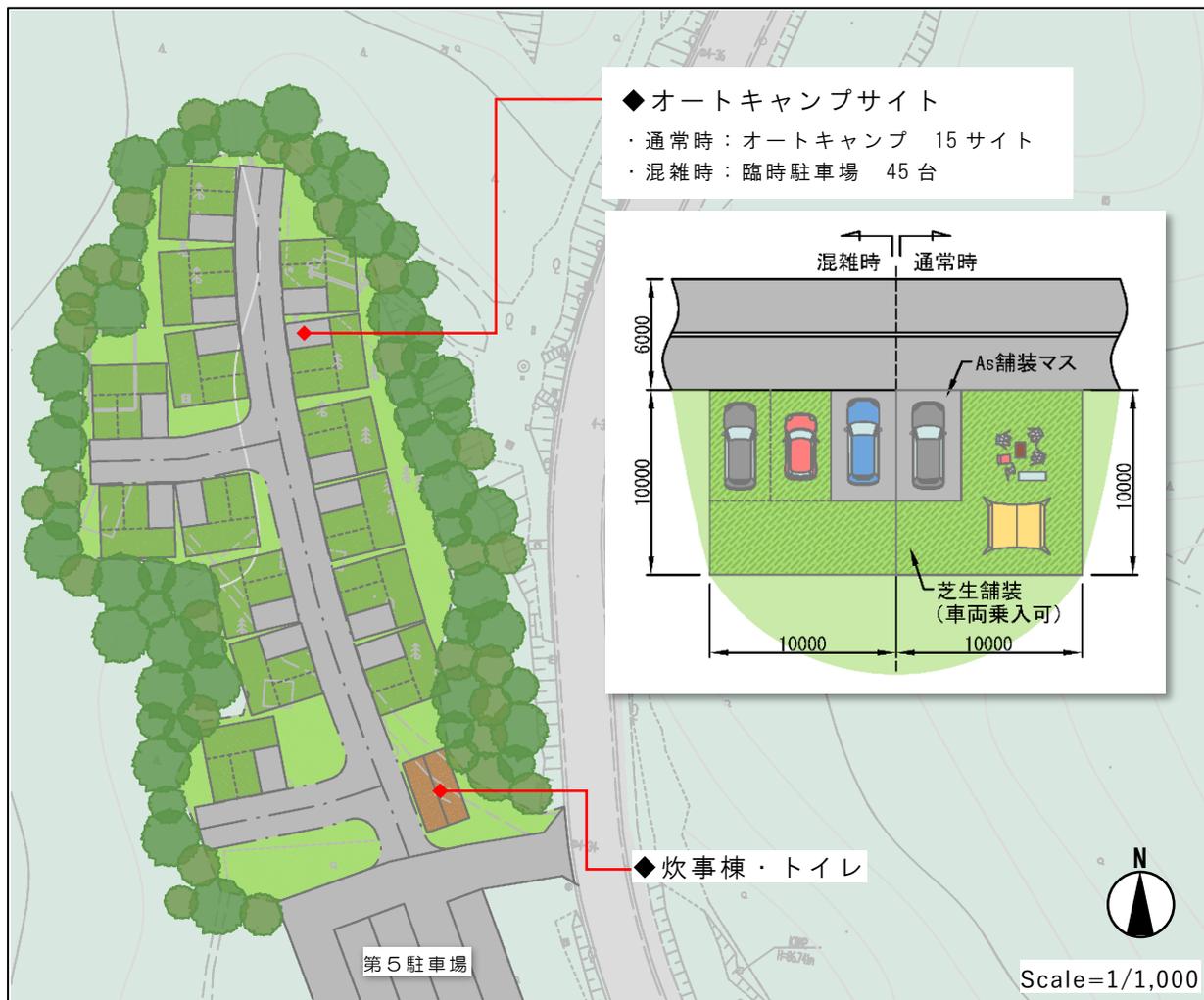
#### ■体験学習ゾーンの整備イメージ図



【整備イメージ】

- ・キャンプ場は、老朽化したトイレや炊事場、休憩施設等を撤去し、場内を平坦に造成しオートキャンプ場として再整備します。
- ・オートキャンプサイトの芝生舗装の基盤材は、耐圧基盤土壌等を採用し車両の乗り入れが可能な構造とし、混雑時には臨時駐車場として利用します。

■キャンプ場施設イメージ図



### 3.8 自然緑地ゾーン

#### 【整備方針】

秋田市を代表する景観の礎となるゾーン。

郷土の自然と景観を守るため、早期にマツ枯れ被害地の植生の回復を図ります。



#### 【観光】

・大森山公園の豊かな自然と秋田市を特徴づけているスカイラインを保全するため、植生を保全、樹林地を創出します。

#### 【自然】

・マツ枯れ被害地の植生回復を図るとともに、潮風や強風に耐える樹木を補植します。  
・公園内のスギ植林は間伐が十分に施されていないため、施設整備にともない順次間伐を実施します。

#### 【協働】

・樹木の剪定や下草刈りなどをボランティアと協働して樹林地を管理します。また、自然観察会などをボランティアと協働して企画、開催します。

#### 【教育】

・樹林地の中で生息、生育する動植物を観察できる散策路を整備するとともに、解説板を設置し、秋田の郷土の自然を体験、学習できる場とします。

#### 【環境】

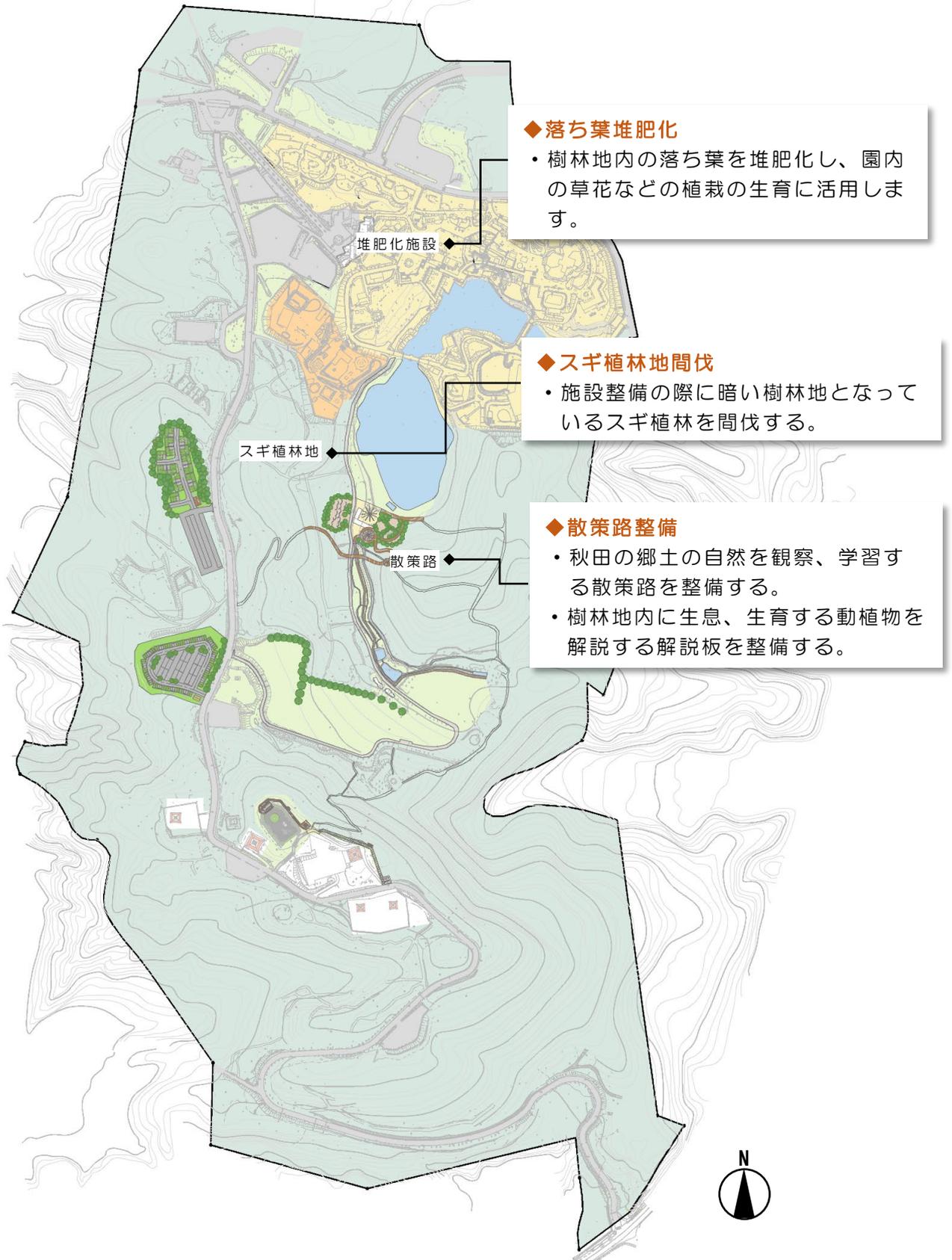
・樹林地内の落ち葉を堆肥化し、園内の草花の肥料に活用します。

#### 【ゾーン整備の方向性】

- ・秋田市の景観の象徴となる、大森山のスカイライン、植生を保全します。
- ・利便性向上のために、樹林地内の園路はバリアフリーに配慮します。
- ・公園全体が活用できるように、樹林地内に生息、生育する動植物が観察できる園路を整備し、回遊性を向上させます。
- ・良好な自然環境を守り続けるため、間伐等の保全活動を行います。
- ・地域連携活性化のために、ボランティア団体との連携を図り、自然観察会等のイベントを検討します。

### 3.8.1 自然緑地ゾーンの整備計画

#### ■自然緑地ゾーンの整備基本計画イメージ図



## 4. 推進プロジェクト

整備計画を実施するにあたり、各ゾーンにおける整備内容を連携する推進プロジェクトを設定します。

### 4.1 にぎわい創出プロジェクト

#### 4.1.1 目的

動物園、公園内施設を魅力ある施設に改修し、何度でも訪れたくなる施設づくりに努め、来園者数の増加を目指します。

#### 4.1.2 施設整備

- ◆アシカ舎などの老朽化した施設を、より集客力のある魅力的な施設となるよう整備、改修し、段階的で継続的な整備に努めます。
- ◆グリーン広場と現在の動物園間に自然豊かな園路を整備し、南側に水と森ゾーン側から動物展示ゾーンへとつながるゲートを整備し、休憩機能、管理機能、展示機能を兼ね備えた施設とします。
- ◆公園内にある桜の木約560本は、利用者に癒しを与える空間をつくっており、大森山の豊かな自然と秋田市を特徴づけているスカイラインを保持するため、市西部のみどりの拠点として保全、整備を図ります。
- ◆遊園地の運営会社と連携し、夢のある楽しい空間づくりに努めます。
- ◆自然が豊かで快適に利用できる空間や海を望みながらのオートキャンプなど、新たな客層の確保に努めます。

#### 4.1.3 仕組みづくり

- ◆市内をはじめ県内の幼稚園、保育所、小学校の遠足や校外学習の利用を推進し、県全域からの恒常的な利用を確保します。
- ◆動物園とその周辺の公園を一体的にPRし、幅広い集客に努めます。
- ◆雪を生かしながら冬期に動物園を楽しんでもらい、入園者の増加につながるよう、通年開園を目指します。
- ◆周辺（宿泊）施設とのセット商品の開発と販売やイベントなどについても継承すると同時に、より利用促進を図る方法を検討します。
- ◆ビジターセンターの食事処や食事の提供方法、秋田産品等の物販販売などについて、来園者のニーズを調査、分析し検討します。
- ◆秋田公立美術大学と連携し、動物園をギャラリーに見立てアート作品を園内に展示したり、市民参加型のアートイベントを開催するなど、アートの動物園という特徴を発信します。
- ◆大森山動物園応援会と協力し、夜の動物園などのイベント開催時にミニコンサートを開催するなど動物園と音楽との融合を図り、幅広い年代に動物園をアピールします。

- ◆大森山動物園ホームページや市の観光情報サイト「アキタッチ+（プラス）」による情報発信のほか、twitter や facebook、instagram などの SNS を活用したリアルタイムの情報発信により、県外へも大森山公園と動物園を一体的に P R します。
- ◆平成 28 年度に整備した園内 Wi-Fi 環境を活用し、GPS 機能付き園内マップの作成や展示動物の紹介（図鑑）等のデジタルコンテンツを提供し、外国人を含む観光客の誘客を図ります。
- ◆他の動物園や水族館等と連携した企画を積極的に提案し、相互協力による集客力の向上に努めます。
- ◆県内を巡る観光ルートに動物園が組み込まれるよう、旅行会社やクルーズ船社等に対しセールス活動を行います。
- ◆全国から訪れる観光客から動物園に足を運んでもらえるよう、旅行情報誌の広告や県の観光情報サイト、隣県へのテレビCM等を積極的に活用し、P R を強化します。
- ◆誰もが分かりやすく、見やすい、また、インバウンドに対応した外国語表記などのサイン表示を適切に配置するほか、最新の情報に更新していきます。
- ◆地元振興会、秋田公立美術大学および新屋ガラス工房と相互に連携し、イベントや商品開発などに企画段階から協働で取り組む体制づくりや事業の実施、運営により、地域の情報発信やにぎわいづくりに努めます。
- ◆動物園ボランティアガイドのほか、緑地管理、環境学習、イベントの企画実施など様々な分野でのボランティア活動を積極的に受け入れ、公園の利用促進、発展の関係を創出、構築に努めます。
- ◆公園内への広告事業の導入や冠イベントの導入等について検討します。

にぎわい創出プロジェクトを推進していくためには、展示施設の改修、新設等のハード整備だけでなく、多様な参加者のイベント企画、広域的な観光連携など幅広い取り組みを検討していきます。

## 4.2 回遊性創出、移動円滑化プロジェクト

### 4.2.1 目的

動物園来園者が大森山公園全体を利用してもらえるように、拠点となる施設を整備、改修し公園全体の回遊性を向上させます。大森山公園の各拠点、ゾーン間の移動施設を整備することで利用者の移動の円滑化、効率化を図ります。

### 4.2.2 整備内容

- ◆土、日、祝日等の来園者数に対応した。公園内駐車場の拡充整備を進めます。
- ◆公園内の豊かな自然環境や展望台をはじめ、園内遊園地などの拠点施設間を移動する施設の導入を検討し、公園施設間につながりを持たせます。
- ◆公園の核となる動物展示ゾーンへの出入り口として、南側にゲートを整備し、一体的な利用と利便性の向上を図ります。
- ◆南側からの一方通行となっている公園道路の車両動線について、退出方向への転換をするために関係部署との調整を進めます。
- ◆動物展示ゾーンで使用している井戸水の冬期開園時における急坂路の無散水融雪システムへの活用を検討します。
- ◆部分的に急勾配で階段の多い園路があるため、遊園地を経営する企業等と連携しながら、子どもや年配者、障がい者等が動物観覧や移動について負担の少ない手段、移動施設を整備します。

### 4.2.3 仕組みづくり

- ◆ゴールデンウィークなど駐車場使用状況や渋滞発生状況を速やかに周知し、来園者サービスの向上に効果的な情報発信を図ります。

## 4.3 持続可能な動物園運営管理プロジェクト

### 4.3.1 目的

将来にわたり親しまれる動物園とするため、主要動物、希少種の繁殖、保存に努めるとともに、運営管理方法の改善、人材確保、人材育成に努めます。

### 4.3.2 管理運営

- ◆動物の入手が困難な時代の中、アシカ、トラなど主要動物や希少種の繁殖、保存に努めるとともに、新たな動物の導入についても検討し、アシカ、トラなど主要動物や希少種については、飼育展示施設に増殖ストックスペースを併設します。
- ◆冬期降雪期にも雪を生かしながら動物園を楽しんでもらえるように、通年開園を目指します。
- ◆民間企業の理念を取り入れ、動物園を経営する視点から、利用者ニーズを的確に把握し、利用者へのサービスを最大化することに努めます。
- ◆環境負荷を低減するために、施設改修には類似施設を集約、一体化させ、熱エネルギーの効率化と管理コストの低減化を図ります。
- ◆再生可能エネルギー、省エネルギー機器の導入に努め、燃料費や光熱水費の節減を図ります。
- ◆秋田に生息する小動物等を大森山の自然のなかに展示、共生する空間を創出するなど、秋田の自然環境、自然植生を生かした整備を行います。

### 4.3.3 人材確保・人材育成

- ◆動物園は、「レクリエーション」「種の保存」「教育」「調査、研究」など幅広い機能を有していることから、キュレーターやホテルのコンシェルジュのようなホスピタリティを備えた人材の確保と育成に努めます。
- ◆円滑な動物園運営を行うため、マーケティング、広報、展示デザインなどに関わる人材と組織づくりに努めます。

## 5. 整備の推進に向けて

整備計画実施に向けた概算事業費と整備スケジュールを設定します。

### 5.1 概算事業費

(単位：百万円)

	項目	短期 (概ね5年以内)	中期 (概ね6～10年)	長期 (概ね11～15年)	計
観光	アシカ舎およびその周辺の改修	350	350		700
	秋田の郷土の森（小動物園）		100		100
	希少種の増殖ストックスペース		200	200	400
	情報発信、PR	10	10	10	30
	通年開園のためのシステム整備	5	5	5	15
	校外学習、社会教育の場として利用促進	5	5	5	15
	人材確保、育成	10	10	10	30
	キュレーター、コンシェルジュ確保・育成	10	10	10	30
	マーケティング等の人材、組織づくり		20		20
	小計	390	710	240	<b>1,340</b>
公園	南ゲート整備	250	250		500
	ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備		75	75	150
	園内バリアフリー化、ユニバーサルデザイン導入	30	30		60
	サクラ等植生保全、創出	20	20	20	60
	駐車場拡充整備、駐車場情報等提供（オートキャンプ場）、なべっこ広場		300	50	350
	急坂路無水融雪システム			100	100
	施設間園路、管理用道路（空中デッキ、塩曳瀉護岸等）	200	300		500
	展望台周辺整備		100		100
	公園道路交通処理再整備	10			10
	グリーン広場再整備			100	100
	LED照明灯、太陽光発電			50	50
	無散水融雪システム			20	20
	スギ植林地間伐		50	50	100
	サクラの木の保全、整備	20	20	20	60
小計	530	1,145	485	<b>2,160</b>	
民間	施設間移動施設導入（民間活力の導入を検討）	10	10	1,500	1,520
	地元企業、教育機関との連携	5	50	5	60
	遊園地運営会社、アクティビティ運営会社との連携	10			10
小計	25	60	1,505	<b>1,590</b>	
	合計	<b>945</b>	<b>1,915</b>	<b>2,230</b>	<b>5,090</b>

## 5.2 整備スケジュール

### ■ハード事業の整備スケジュール

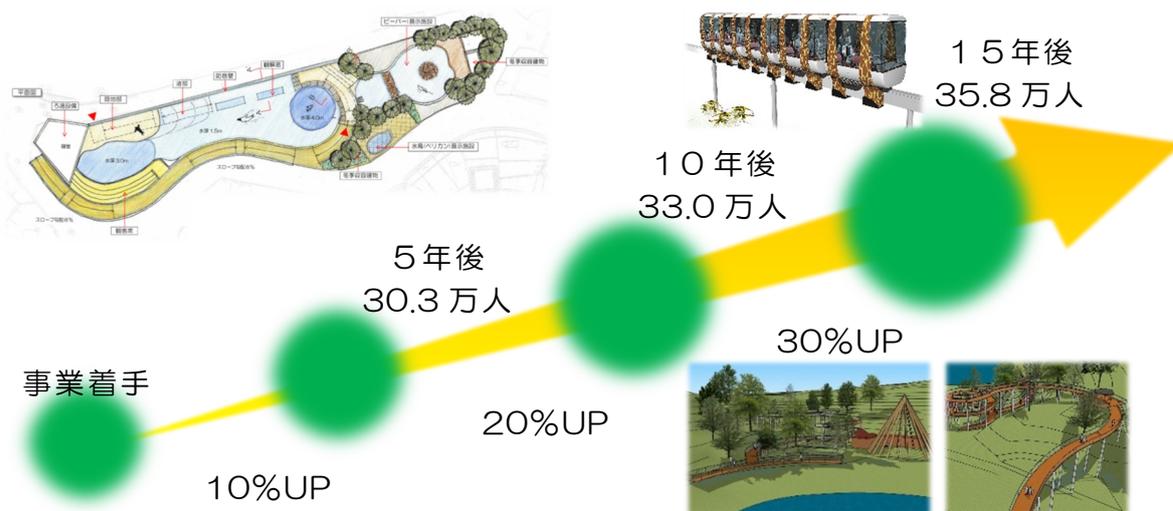
項目	整備内容	整備スケジュール		
		短期 (概ね5年以内)	中期 (概ね6~10年)	長期 (概ね11~15年)
自然	アシカ舎およびその周辺の改修	◆→	→	
	秋田の郷土の森（小動物園）		◆→	
	希少種の増殖ストックスペース		◆→	→
	ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備		◆→	→
	園内バリアフリー化、ユニバーサルデザイン導入	◆→	→	
	サクラ等植生保全、創出	◆→	→	→
観光	公園道路交通処理再整備	◆→		
	駐車場拡充整備（オートキャンプ場）、駐車場情報等提供、なべっこ広場		◆→	→
	施設間園路、管理用道路（塩曳瀧、空中デッキ等）	◆→	→	
	展望台周辺整備		◆→	→
	急坂路無散水融雪システム			◆→
	施設間移動施設導入(民間活力の導入の検討)	◆→	→	→
	南ゲート整備	◆→	→	
	グリーン広場再整備			◆→
教育	※ハード事業なし			
環境	LED照明灯、太陽光発電			◆→
	無散水融雪システム			◆→
	スギ植林地間伐		◆→	→
協働	サクラの木の保全、整備（市民などとの協働）	◆→	→	→

## ■ソフト事業の整備スケジュール

項目	整備内容	整備スケジュール		
		短期 (概ね5年以内)	中期 (概ね6～10年)	長期 (概ね11～15年)
自然	利用者目線からの大森山自然動物公園の運営	→	→	→
	土地等使用料の見直しや収入増につながる取組	→	→	→
	燃料費や光熱水費の節減	→	→	→
	遠足や校外学習の利用促進	→	→	→
	動物園とその周辺の公園の一体的PR	→	→	→
	周辺施設とのセット商品の開発	→	→	→
	ビジターセンターの食事処や食事の提供方法、秋田産品等の物販販売	→	→	→
	アートの動物園という特徴の発信	→	→	→
	幅広い年代への動物園のアピール	→	→	→
	SNSを活用したリアルタイムの情報発信	→	→	→
	周辺の動物園や水族館等との連携企画	→	→	→
観光	通年開園の検討	→	→	→
	旅行会社やクルーズ船社等へのセールス活動	→	→	→
	観光情報サイト、隣県へのテレビCM等の活用	→	→	→
	バリアフリー、ユニバーサルデザインの採用	→	→	→
教育	校外学習、社会教育の場として利用促進	→	→	→
環境	※ソフト事業なし			
協働	人材確保、育成	→	→	→
	コーディネーター、コンシェルジュ確保・育成	→	→	→
	マーケティング等の人材、組織づくり		→	
	ボランティア活動の受入れ	→	→	→
	公園内への広告事業の導入や冠イベントの導入	→	→	→
	地元企業、教育機関との連携	→	→	→
	遊園地運営会社、アクティビティ運営会社との連携	→	→	→

### 5.3 需要推計と波及効果

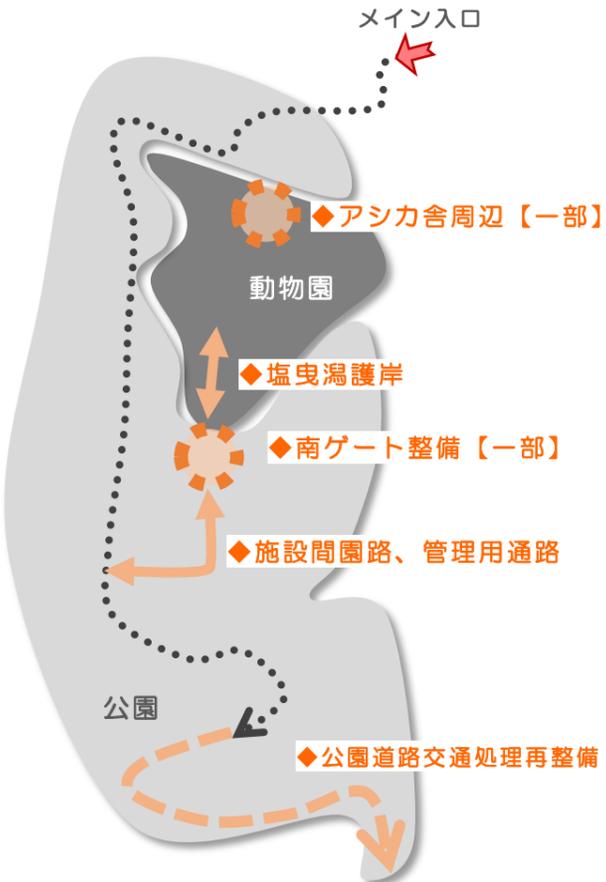
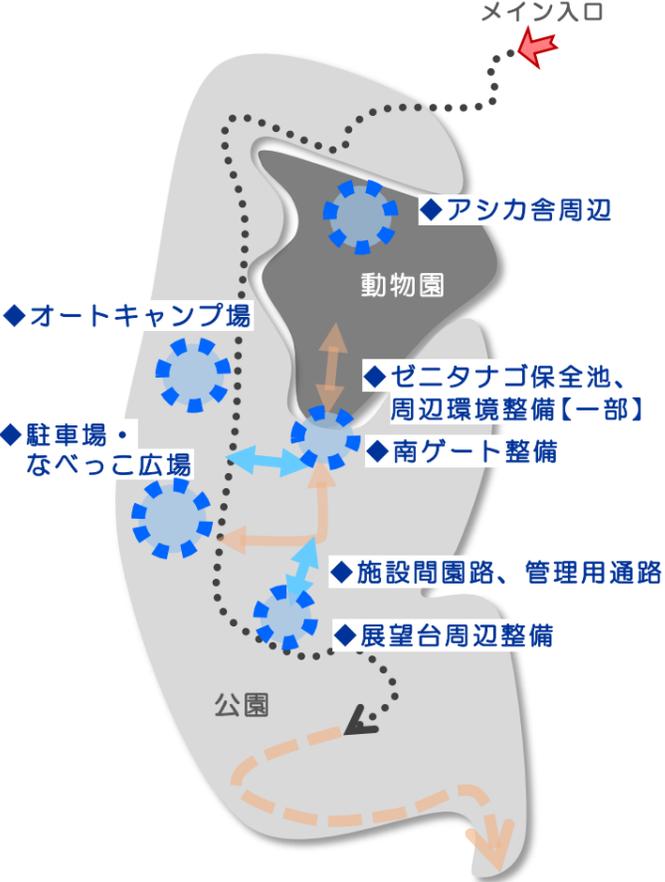
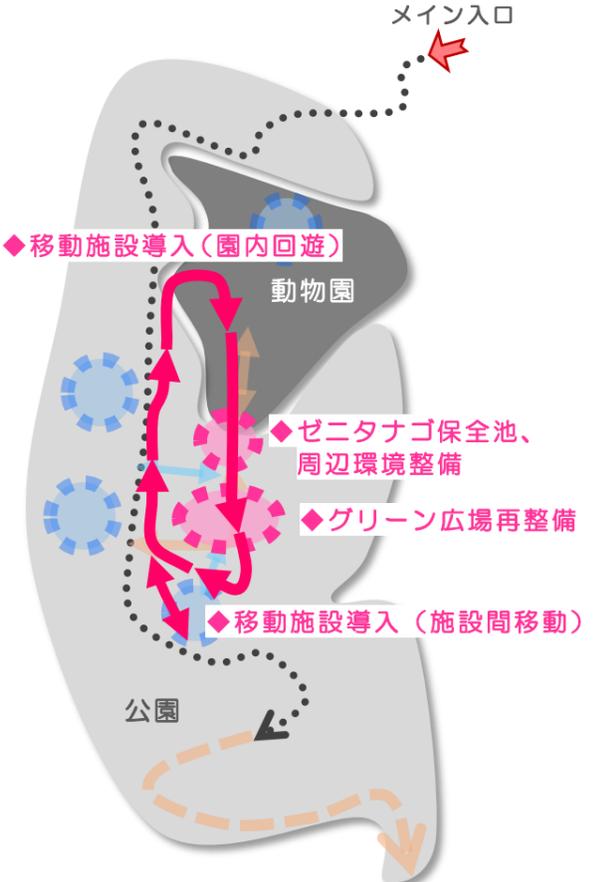
大森山動物園の令和元年度の年間利用者数は 27.5 万人であり、近年の入園者の推移は横ばい傾向であるが、秋田県全体の観光客数は増加傾向にあり、基本計画で立案した整備内容を実施することで入園者数が増加するとともに、その集客力の公園全体への波及が予想され、公園全体が一体的な観光拠点としてにぎわいが創出されることにより、周辺観光施設等への波及効果、経済効果が見込まれます。



#### ■ 整備効果・波及効果

主な整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカ舎およびその周辺の改修【一部】</li> <li>・南ゲート整備【一部】</li> <li>・施設間園路整備（塩曳瀧護岸整備）</li> <li>・公園道路交通処理再整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカ舎およびその周辺の改修</li> <li>・秋田の郷土の森（小動物園）</li> <li>・施設間園路、ｽｰﾌﾟ等整備（水と森のｸﾞｰﾝ、眺めのｸﾞｰﾝ）</li> <li>・南ゲート整備、ゼニナゴ生息環境保全</li> <li>・駐車場（なべっこ広場）、ｷﾞﾗﾝﾌﾟ場改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動施設導入（施設間移動、園内回遊）</li> <li>・ゼニナゴ生息環境保全</li> <li>・ｸﾞｰﾝ広場再整備</li> </ul>
推計動物園入園者数	30.3 万人	33.0 万人	35.8 万人
推計公園利用者数 （動物園入園者に対する割合）	3.3 万人 （11%）	4.3 万人 （13%）	5.3 万人 （15%）
推計公園内宿泊客数	0.24 万人	0.26 万人	0.27 万人
推計公園全体利用者	34.6 万人	36.5 万人	41.1 万人
波及効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市内観光客（宿泊）増加</li> <li>・公園南側利用者の増加</li> <li>・秋田産品等物販拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習、環境教育活性化</li> <li>・ﾎｰﾗﾝﾃﾞｱ活動活性化</li> <li>・官民連携拡大</li> <li>・自然環境保全、創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流人口拡大</li> <li>・ｲﾝﾌﾗｽﾄﾗｸﾁｬｰ需要拡大</li> <li>・自然植生保全</li> </ul>
経済効果（5年間）	20.7 億円	38.6 億円	44.5 億円

■計画期間毎の整備イメージ

計画期間	短期（概ね5年以内）		中期（概ね10年以内）		長期（概ね15年以内）	
整備イメージ						
主な整備内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設間園路、管理用通路（塩曳瀧護岸等）</li> <li>南ゲート整備【一部】</li> <li>公園道路交通処理再整備</li> <li>アシカ舎およびその周辺の改修【一部】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>施設間園路、管理用通路（空中デッキ等）</li> <li>南ゲート整備</li> <li>展望台周辺整備</li> <li>駐車場拡充整備（オートキャンプ場、なべっこ広場）</li> <li>ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備【一部】</li> <li>アシカ舎およびその周辺の改修</li> <li>秋田の郷土の森（小動物園）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備</li> <li>グリーン広場再整備</li> <li>移動施設導入（施設間移動、園内回遊）</li> </ul>	
概算事業費（百万円）	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設間園路、管理用通路（塩曳瀧護岸等）</li> <li>南ゲート整備【一部】</li> <li>公園道路交通処理再整備</li> <li>その他（園内バリアフリー化、ユニバーサルデザイン導入等）</li> </ul>	<p>200</p> <p>250</p> <p>10</p> <p>135</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設間園路、管理用通路（空中デッキ等）</li> <li>南ゲート整備</li> <li>展望台周辺整備</li> <li>駐車場拡充整備（オートキャンプ場、なべっこ広場）</li> <li>ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備【一部】</li> <li>その他（園内バリアフリー化、ユニバーサルデザイン導入等）</li> </ul>	<p>300</p> <p>250</p> <p>100</p> <p>300</p> <p>75</p> <p>440</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備</li> <li>グリーン広場再整備</li> <li>その他（無散水融雪システム等）</li> </ul>	<p>75</p> <p>100</p> <p>555</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アシカ舎周辺の改修【一部】</li> </ul>	<p>350</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アシカ舎およびその周辺の改修</li> <li>秋田の郷土の森（小動物園）</li> </ul>	<p>350</p> <p>100</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動施設導入（施設間移動、園内回遊）</li> </ul>	<p>1,500</p>
	合計(百万円)		合計(百万円)		合計(百万円)	
	945		1,915		2,230	
整備効果・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>推計動物園入園者数（5年後）： 30.3万人</li> <li>推計公園全体利用者数（5年後）： 34.6万人</li> <li>経済効果（5年間）： 20.7億円</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>推計動物園入園者数（10年後）： 33.0万人</li> <li>推計公園全体利用者数（10年後）： 36.5万人</li> <li>経済効果（5年間）： 38.6億円</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>推計動物園入園者数（15年後）： 35.8万人</li> <li>推計公園全体利用者数（15年後）： 41.1万人</li> <li>経済効果（5年間）： 44.5億円</li> </ul>	

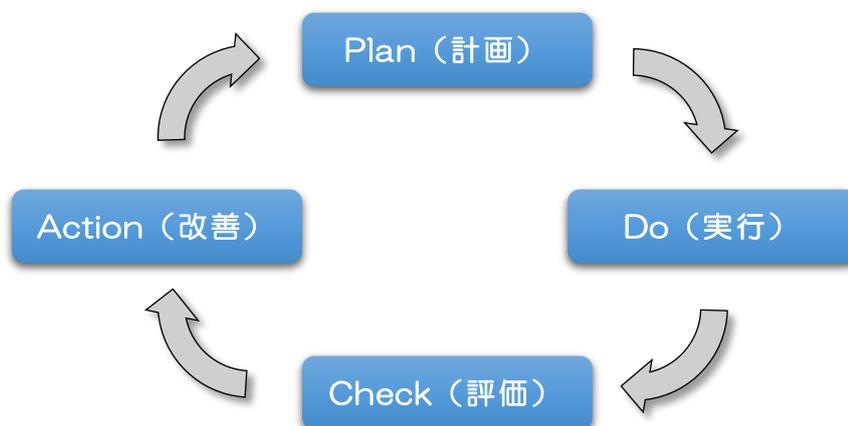
#### 5.4 基本計画の PDCA サイクルと見直し

基本計画、推進プロジェクトを実施していくために、計画：Plan・実行：Do・評価：Check・改善：Action の PDCA サイクル※に基づき、進行管理を行います。関係者への年間報告、意見交換、フィードバック状況の報告など、常に情報開示された進行管理を進めます。

また、概ね 5 年ごとに、各施策について実施状況を基に検証し、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

※計画等の管理手法の一つで P (Plan : 計画) → D (Do : 実行) → C (Check : 評価) → A (Action : 改善) → P → D → C → A をサイクルとして繰り返しながら進めることで、継続的に改善しつつ、計画を実行する手法です。

#### ■ PDCA サイクルのイメージ



# 大森山公園整備基本計画

2021年3月

編集・発行 秋田市  
お問い合わせ先 秋田市大森山動物園  
〒010-1654 秋田市浜田字潟端154番地  
電話 018-828-5508  
FAX 018-828-5509